Research Fair 2017
第20回記念大会要旨集

「知の祝祭」リサーチ・フェア2017に寄せて

リサーチ・フェア2017へようこそ

みなさん、知っていましたか？総合政策学部の名物「リサーチフェア」が、今年で20回目を迎えるのです。誕生した時から見守ってきた私にとっては、わが子の成人を祝うような気持ちです。20年前、大学での研究発表といえば、ゼミ単位で行う小規模なものが主流であった時代、学部を挙げて日ごろの研究成果を発表する「リサーチフェア」のような試みは、非常に新しいものでした。しかも、学生自身が社会の問題に対して解決のための政策を提案するという「総政スタイル」は、当時の日本ではあまり見られないものだったのです。それが今日では、決して珍しいものではなく、それどころか日本の教育全体が目指す方向にさえなっています。

総合政策学部では、大学で学び、自ら研究する知的な営みの目的は、なによりも社会やそこに暮らす人々が抱える様々な問題を解決するためにある、と考えています。「自然との共生、人間との共生」を実現することが、総合政策学部の教育研究の目的です。どうか、今日ここに集った皆さんが、この大きな目的を共有して、それぞれの研究発表に全力で取り組まれることを期待しています。

総合政策学部長　細見和志

18日（土）午後に第20回記念企画開催
卒業後のキャリアについて卒業生（先輩）からの声を在学生の皆さんへ

■　13:00～14:30にAcademic Commonsにおいて、総合政策学部卒業生から仕事やキャリアについてのお話をうかがうイベントとして、

（1）シンポジウム「総合政策、リサーチ・フェア、そしてキャリア」

（2）アポなしOBOG

を開催します。重工業のメーカー、銀行、公務員、教員、市会議員、航空機パイロット、NPO、様々な職業にたずさわっている先輩の皆さんが、仕事とは、そしてキャリアとは何かを皆さんにお伝えします。まったくオープンなイベントですから、他大学、他学部、高校生の方もご参加できます！　是非、大学での学びや就職、仕事についてのお話を聞こう！

■14:30～15:00には各賞受賞者発表式＋全体講評

皆さんの成果発表への評価を確かましょう！

ご発表された方々はぜひ、ご参加下さい。

POLICY STUDIES
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

開催：11月17日（金）、18日（土）

― 目次 ―

1　リサーチ･フェアの紹介　----------　1

2　プログラム　----------　2～3

3　会場図　----------　4

4　1日目要旨　----------　5

◆EC　Presentation　----------　5

◆口頭発表　----------　6

A会場(Ⅱ-101)･････････････････････････　6～7
B会場(Ⅱ-102)･････････････････････････　8～9
C会場(Ⅱ-111)･････････････････････････10～11
D会場(Ⅱ-201)･････････････････････････12～13
E会場(Ⅱ-204)･････････････････････････14～15

◆ポスター発表　----------16～21

◆自由形式　----------22～23

5　2日目要旨　----------　24

◆口頭発表　----------　24

A会場(Ⅱ-101)･････････････････････････　24
B会場(Ⅱ-102)･････････････････････････　25
C会場(Ⅱ-111)･････････････････････････　26
D会場(Ⅱ-201)･････････････････････････　27
E会場(Ⅱ-204)･････････････････････････　28

◆自由形式　----------　29

◆第20回記念大会企画
（総合政策学部＆総合政策学部同窓会共催）
・シンポジウム「総合政策学部、リサーチ・フェア、そしてキャリア」　-----30～35
・アポなしOBOG訪問

6　各賞授賞者発表・全体講評　----------　30

受賞者発表では、各賞（最優秀、優秀、奨励等）の受賞者を発表、出席者には副賞（図書カード）を授与しますので、発表された方は御参集下さい。なお、賞状は作成に時間がかかるため、11月22日のチャペルの時間に受賞式を開催する予定です。

リサーチ・フェアの紹介

リサーチ・フェアは、総合政策学部から初めての卒業生を送り出そうという1998年秋に、「卒業生の研究発表の場を設けたい」という故安保則夫先生からの提案で始まりました。なお、安保先生は創設時からこの学部の運営の中心で、初代の学部長の天野明弘先生を支えられた後、第2代学部長を務められましたが、学部長ご退任直後に急逝されました。

安保先生は最初、「ゼミ単位の発表を」とお考えでした。しかし、他の先生方から「うちのゼミではみんな違うことをしている」「どうせやるなら、個人で発表を」という意見が強く、「理系では当たり前のポスター発表や自由形式も採用すればなんとかなる」ととりあえず始まりました。それから、様々な試みを経て、今年で20回を数えます。

その経緯を踏まえて、学生の皆さんにお伝えしたいのは以下の２点です。 まず、リサーチ・フェアは教職員と学生のコラボレーションで始まりました。とくに、このイベントを始めた1期生の方々、彼ら／彼女らは“総合政策”というまったく新しい学部を手作りで作り上げていった人たちでしたが、リサーチ・フェアもまたその一つでした。しかし、そろそろ学部が開設されて四半世紀が経とうという昨今、今や、リサーチ・フェアも「当たり前」の世界になってしまい、学生の皆さんからさらなるイノベーションを図ろうとする意欲がやや薄れてきた雰囲気も感じないわけではありません。そのあたり、皆さんの自発的な活動を強く望む次第です。関心がある方は、是非、リサーチ・フェア実行委員会に学生委員としてご参加いただければと思います。

もう一つは、このリサーチ・フェアが様々なネットワークの一つの要（かなめ）になっていることです。例えば、１～２年生は上級生の発表を参考に学科、ゼミを選択する。３～４年生はリサーチとプレゼンテーションの方法を実践して、卒業論文や卒業後の仕事に活かす。さらに卒業生の方々は1年のこの日、キャンパスに戻って後輩（＝皆さん）に自らの仕事を語り、皆さんは先輩の話から自らの進むべき道を選んでいく。ここ数年、高校からの発表者や見学者も増えました。そこに高校、大学、そして社会のつながりを見出す。それが大学が持つ本来の使命の一つ、リベラル・アーツ（教養）の一つの姿だと思います。

さらに付け加えれば、学生の皆さんに今、本当に望みたいのは“聴く”ことかもしれません。リサーチ・フェアでもプレゼンテーションが中心となり、いきおい、みんな自分の表現に集中する。しかし、（卒業後の社会がまさにそうですが）、みんな一年中“プレゼン”しているわけではありません。

むしろ、相手の話を“聴く”、しかも相手の“真意”を感じ取る、そして議論を重ねて、それまで相手も自分も気づかなかった“新しい世界”に気づく。これがソクラテス以来の対話型ディスカッションの本質です。そして、それができる方こそ、「自分が生きている時代を生き抜く力」を身につけていると言えるでしょう。

そう考えると、リサーチ・フェアこそまさに絶好の機会です。ほかの学生・院生・教員が何を考え、何を伝えたいのか、そしてそれに自分はどう応えるのか？　さらに議論の中から互いに思っても見なかった答えを探し出せるか？　という意味で、学問の新たな地平＝真のワンダーランドにようこそ！

リサーチ・フェア2017プログラム（修正・変更等は当日、掲示等でお知らせしますので、ご注意下さい）

時間帯・教室ごとに、タイトルと発表代表者名・所属・学年、および記入された方のみゼミ名等を記入しました。

第1日（金曜日）

EC Presentation

時間	Ⅱ-101	Ⅱ-102	Ⅱ-111	Ⅱ-303	Ⅱ-304	Ⅱ-305
9:00	**Homelessness** *Akimi Adachi et al.*	**Homelessness** *Shuto Minami et al.*	**Refugees** *Mei Nakanishi et al.*	**Obesity** *Hinata Tamura et al.*	**Obesity** *Rica Nagashima et al.*	**Refugees** *Keito Nakagawa et al.*
9:30	**Income Inequality** *Aisa Yamamoto et al.*	**Obesity** *Kotomi Fujii*	**Species Extinction** *Keito Taniguchi et al.*	**Climate Change** *Arisa Neki et al.*	**Income Inequality** *Satoru Miyawaki et al.*	**Homelessness** *Kyo Chisaka et al.*
10:00	**Income Inequality** *Aisa Yamamoto et al.*	**Refugees** *Meg Obata et al.*	**Species Extinction** *Keito Taniguchgi et al.*	**Climate Change** *Arisa Neki et al.*	**Income Inequality** *Satoru Miyawaki et al.*	

口頭発表

	A会場（Ⅱ-101）	B会場（Ⅱ-102）	C会場（Ⅱ-111）	D会場（Ⅱ-201）	E会場（Ⅱ-204）
10:30					
11:00	A101 みなべ町の避難環境に関する研究 大向信也（総政3年；照本ゼミ）他	B101 E-Commerceにおける不満情報とレビューに基づいた不満解決商品推薦手法の提案 林利憲（総政M1）	C101 ファッションで農業業界を豊かに ～農業と流行～ 吉村咲良（総政3年；今井ゼミ）他	D101 日韓同盟 ～対北朝鮮安全保障の観点から～ 平野歩（総政3年）他	E101 喜界語の研究 鴫原歩（総政3年；本田ゼミ）他
11:30	A102 津波避難に対する住民の意識と地域特性～御坊市を事例に～ 長野里菜（総政3年；照本ゼミ）他	B102 ロコミサイトにおける投稿画像を利用したユーザのコスメアイテム選別支援 長濱卓範（総政4年）	C102 Sustainable Agriculture for the Earth 甲田凛（京都学園高1年）他	D102 100万「元」の夜景？ ～香港の一国二制度は続くのか～ 岩佐奈美（総政3年；井上ゼミ）他	E102 Cultural Differences in Appealing to Consumers: Movies and TV Advertisement 勝部万里子（総政3年；Sawyerゼミ）他
12:00	A103 自然災害に関する財政学アプローチによる実証分析～サーベイと展望～ 北岡佑太（総政Ｍ２）	B103 レシピ動画の調理動作区間に基づく難易度判定 秋口いくみ（総政4年；角谷ゼミ）	C103 食料廃棄の再利用方法について。 中澤樹（総政3年；細見ゼミ）他	D103 潤う食卓の裏にあるMOTTAINAI 山辺浩未（総政3年；園田ゼミ）他	E103 Returnees（Kikokushijo） vs. Monocultural Japanese 石原彩夏（総政3年；Sawyerゼミ）他
12:30	A104 日本社会は持続可能か～東北被災地の復興にみる地域社会の持続可能性～ 井上裕大（総政3年；長峯ゼミ）他	B104 現代のフェイクニュース問題 坪井理沙（総政4年；Tijerinoゼミ）他	C104 農業からみた日本社会の持続可能性 眞鍋由羽（総政3年；長峯ゼミ）他	D104 食料廃棄とロスが加速させる気候変動 赤松景政（京都学園高1年）他	E104 For the True Globalization. 小西加奈（総政3年；Sawyerゼミ）他
13:00	A105 Creating a platform for open innovations in provincial cities: A case study of Osaka 辛嶋楓（総政2年）他	B105 迫り来るフェイクニュースの脅威 坂本蓮太郎（総政3年）他	C105 Life on Land 人見玲奈（京都学園高1年）他	D105 After Cooperation～フィリピン農家の未来について～ 大西貴大（総政3年：西野ゼミ）他	E105 The relationship between bilingual and environment 上野和哉（総政3年；Sawyerゼミ）
13:30	A106 How to Help Decongest Metro Manila Traffic～Comparative Study on Actual Condition of TOD from the Viewpoints of Components～ 宮本麟太郎（総政3年；角野ゼ	B106 音楽の可能性～音楽を聴くとどのようなことが起こるのか～ 江坂孝祐（総政4年；Tijerinoゼミ）	C106 フィリピンにおけるレジ袋問題について～ヌエヴァ・ヴィスカヤ州を事例として～ 小池貴子（総政M1）	D106 責任ある消費と生産 木村優月（京都学園高1年）他	E106 Japanese and German views of life 肥塚貴之（総政3年；Sawyerゼミ）他
14:00	**ポスター発表ディスカッションタイム（タイトル・発表代表者は下記参照）14:00～15:00（神戸三田キャンパスⅡ号館廊下）**				
15:00	A107 日本における民泊のあり方 ～民泊の実態とは～ 久保恭平（総政3年；山根ゼミ）他	B107 官民ファンドの実態と今後のあり方について 中村聡太（総政3年；亀田ゼミ）他	C107 ショッピングモールにおける経営戦略 ～モール事業への提言～ 岩崎隆馬（総政3年；古川ゼミ）他	D107 トランプ政権の外交・安保思想 田中雄大（総政3年；小池ゼミ）他	E107 児童虐待はどのような影響を与えるだろうか？ 井上大輔（総政３年；四方ゼミ） 他
15:30	A108 What Should Japan Do To Increase The Number of Repeat Tourists? 二階堂倫子（総政2年）他	B108 なぜ日銀のインフレ目標は達成されなかったか？～賃金と物価間の関係性考察とDSGEによる分析～ 高島渓太（総政3年）他	C108 オリーブ石鹸でこうべっぴん ～オリーブ石鹸の販売戦略～ 足立あきほ（総政3年；古川ゼミ）他	D108 国際連合安全保障理事会における各国の影響力の格差～シャープレイ値による分析～ 延東知孝（総政4年井垣ゼミ）他	E108 禁煙ブームの中なお吸い続ける喫煙者たち 森大昂（総政３年；四方ゼミ） 他
16:00	A109 ファッション都市として繁栄する地方都市の産業振興 築出明紀（総政3年；斎藤ゼミ）	B109 政府による将来世代への教育投資のあり方～世代重複モデルからみた最適な投資の数理モデル～ 金定賢（総政3年；亀田ゼミ）他	C109 関西クラフトビールの販売戦略 長谷晃一郎（総政3年；古川ゼミ）他	D109 中国の海外進出 ～アフリカを事例に～ 佐本朱理（総政3年；坂口ゼミ）他	E109 KSC図書メディア館の在り方 ～読書空間の再構築～ 木村和樹（総政3年；清水ゼミ）他
16:30	A110 コットンのまち西脇～西脇コットンブランド化を目指して～ 田中翔子（総政3年；客野ゼミ）他	B110 働きすぎは当たり前？ ～断れない日本人の心に迫る～ 岡崎真由（総政3年；細見ゼミ）他	C110 地域と共に創りあげる魅力発信のシティプロモーションとは 光田稀一（総政3年；清水ゼミ）他	D110 Village Homestay Tourismが促す包括的な地域開発～東ネパールSri Antu村の取り組みを事例に～ 内藤早百合（総政M1）	E110 教育コンテンツの学習行動に基づく教えあい支援システム 野村湧司（総政4年）
17:00	A111 美しい街並み政策！ 来嶋佑太（総政3年；関根ゼミ）他	B111 女性のチカラは無限大！～労働市場における女性参加を考える～ 田盛結菜（総政3年；坂口ゼミ）他	C111 なぜ、若者の生活満足度は高いのだろうか？ 福岡宏基（総政3年；四方ゼミ）他	D111 アンパンマンのマーチから考える～フィリピンの現状と学生の取り組み～ 瀧尻和子（総政3年）他	E111 子どもの体力低下は、メディアとどのような関係なのか？～子どもの運動能力向上を目的としたメディアの活用～ 大迫有紀（総政3年）他
17:30	A112 ゼロ・ウェイスト運動とは～徳島県上勝町フィールドワークの報告～ 馬淵奈々子（総政3年；関根ゼミ）他	B112 マスコミ各社の世論調査結果の比較検討 大山康平（総合政策研究科M1）	C112 Why are Japanese people said to lack certain thinking abilities? 奥内麻友（総政3年）他	D112 旅が人生を豊かにする！ ～世界の旅人の生の声～ 坂口将平（総政3年；Sawyerゼミ）	E112 日本と台湾の大学生活の充実度とキャリアビジョンに関する研究 服部千波（総政3年）他

自由形式

Ⅱ-105	Ⅱ-107	Ⅱ-109	Ⅱ-112	Ⅱ-205	Ⅱ-208	Ⅱ-209
自由形式1 ■10:00～13:30 「熊本のいま」を伝えたい～熊本地震現地ボランティア活動報告～ 菅翼（総政3年）他	自由形式2 ■10:30～11:00 外国人への日本語学習支援～オンラインとゲームを利用した学習～ 藤川茜（総政4年；Tijerinoゼミ）他 ■11:00～11:30 アニメーション制作から考える2Dと3DCGの比較 片ノ坂真由（総政4年；Tijerinoゼミ）他 ■11:30～12:00 Virtual Mirrorの時代は来るのか？ 福岡翼（総政4年）他 ■12:00～13:00 VRを用いた教育ツールの開発とVRの可能性 ハンター山下海（総政3年；Tijerinoゼミ）他 ■13:00～13:45 変革をもたらすVR～体感できる新しい価値～ 嶋睦弥（総政3年；Tijerinoゼミ）他 ■14:00～15:00 vrを通じての言語教育～recroomの将来性と実用性～ 韓遠会（総政3年） ■15:00～15:35 「拡張現実を取り入れた学内生活快適システムの提案」 竹内一将（総政4年；Tijerinoゼミ）他		自由形式4 ■11:00～13:00 ドキュメンタリー映像におけるVRの可能性～フィジー共和国でのインタビュー題材を用いて～ 小野悠希（総政4年；山田ゼミ） バス利用ガイドのアプリケーション開発～訪日外国人観光客のバス利用を容易にするには～ 角勝亜衣（総政4年） 30分×各2回			自由形式7 ■10:00～16:00 愛 can change the world！～小西ゼミ生×フィリピン～ 稲岡美咲（総政3年；小西ゼミ）他
		自由形式3 ■12:00～16:00 2017年度白山麓実習の報告と今後の展望 芳田彩希（総政4年；佐山ゼミ）他			自由形式6 ■15:00～16:00 「表現」・映像制作・発表～学生が創るドキュメンタリー番組～ 森川瑞希（総政2年）他	
				自由形式5 ■16:00～16:30 ネット動画によるマイナースポーツの知名度向上～陸上ホッケーを用いて～ 国府田アン（総政4年；伊佐田ゼミ）		

ポスター発表（ディスカッションタイムは第1日［金］の14:00～15:00）

No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル
P1	于麗雅（総政M2）	朝鮮戦争における毛沢東の参戦動機	P3	平泉夏（総政3年）	日本の首相のリーダーシップの変化	P5	太田葉月（総政3年；安ゼミ）他	大月真珠の新市場開拓戦略～真珠×○○ from KOBE。
P2	曹チン茜（総政M2）	オバマ政権の対中政策に対する中国の反応～アジア太平洋回帰政策を中心に～	P4	吉田将大（総政3年；大村ゼミ）	経済政策の背景	P6	平岩奈津子（総政3年；李ゼミ）他	就職活動における満足感～就職先は満足？～

ディスカッションタイム　第1日（金曜日）　14:00～15:00

ポスター発表

P7	原一大（総政3年；李ゼミ）他	内定ブルーとは？ ～本当にその就職先でいいんですか～	P24	森川尭（総政3年；客野ゼミ）他	播州織noベーション	P41	天野健司（総政４年；伊佐田ゼミ）	Scratchで作る２対２のサッカーゲーム
P8	斉派（総政M2）	北京市における公共住宅政策に関する調査研究 ～回龍観地区の居住環境・機能・満足度調査～	P25	竹鼻航平（総政3年）	若手建築家の方法論と今後の可能性	P42	柿本穂香（総政３年；角谷ゼミ）	Web検索のための動画字幕データを用いた検索キーワード自動生成方式
P9	山川朋世（総政3年；大村ゼミ）	国民による税負担率は投票率にどのような影響を与えるのか	P26	安東初乃佳（総政３年；山根ゼミ）他	古民家の再生～尾道市の例を参考にして～	P43	澤田悠冶（総政３年；角谷ゼミ）	モデル化した不満情報による語義の多義性と多様性の分析
P10	藤本実沙（総政3年；安高ゼミ）他	少子化対策～関学生の結婚観をヒントに～	P27	尾崎大健（北摂三田高２年）	妖怪たちが人間に与えたもの	P44	柏木宏友（総政３年；角谷ゼミ）	料理動画のハイライト部分の抽出
P11	白石誉拓（総政4年；伊佐田ゼミ）	中山間地域とICT	P28	鄭雅文（総政４年；伊佐田ゼミ）	日本の美意識～「痩せすぎ」と健康意識～	P45	小林伸司（総政３年）	三次元空間モデルに基づく、オンライン店舗の提案
P12	三原大樹（総政4年；伊佐田ゼミ）	雪山活性について	P29	黒田圭菜（総政４年；伊佐田ゼミ）	日本人女性における社会と人工美「タトゥー」についての研究	P46	服部龍太郎（総政３年）	LiVECMの特性分析
P13	青木嵩（総政M2）	生活拠点機能の再編による郊外住宅地再生の可能性～三木市緑が丘・志染町青山地区を対象に②アンケート調査による住民の行動実態～	P30	金信愛（総政４年；伊佐田ゼミ）	韓国の美容整形～満足度を向上するために～	P47	中島卓哉（総政４年；伊佐田ゼミ）	電子書籍普及に伴う、紙媒体書籍の今後の役割についての考察
P14	高見将大（総政M2）	位置情報付き写真を用いた観光客の動態から見る観光政策について～兵庫県朝来市竹田地域を対象に～	P31	林秀明（総政３年；宮川ゼミ）他	めざせ！ポイ捨てゼロ社会！	P48	友森美有（総政３年）	コスメアイテムにおけるレビュー情報と使用感の差異に基づく分析
P15	上村麻美（総政3年；斎藤ゼミ）他	三田市の耕作放棄地の有効活用 ～農業の活性化を目指して～	P32	坂入美緒（総政３；宮川ゼミ）他	塵も積もれば山となる！～カフェへのマイボトル持参による廃棄プラスチックカップの削減～	P49	瀧山あおい（総政３年）	消費者の購買意欲を促進させる美容系動画の分析
P16	長谷川翔大（総政3年；斎藤ゼミ）他	篠山市の観光客数を増やすには ～歴史的町並みを活かして～	P33	小椋拓眞（総政４年；佐山ゼミ）他	佐山ゼミ阿蘇実習報告	P50	戸田雅晴（総政３年；角谷ゼミ）	映画の宣伝におけるキャッチコピーの分析
P17	村田真梧（総政M2）	住民の地域環境意識を促すサウンドスケープ・デザイン提案～兵庫県丹波市柏原町を対象に～	P34	工藤大夢（総政３年；今井ゼミ）他	過剰包装から排出されるゴミを減らすために～ネット通販における過剰包装の観点から～	P51	髙木明央（総政３年）	ドライバー特性に適した道路推薦のためのリアルタイム走行データ分析
P18	伊藤佑一郎（総政3年；山根ゼミ）	高齢者住宅の充実によって地域問題は解決されるのか～三田市の衰退を大きな発展へ～	P35	又吉映見（総政３年；今井ゼミ）他	日本でペット殺処分を減らすために～ペットショップに規制をかけると上手くいく？！～	P52	阿部修也（総政４年；伊佐田ゼミ）	フジテレビドラマ視聴率低迷の原因とは。
P19	菅翼（総政3年；安高ゼミ）他	観光客はどのような観光行動をとっているのか？ ～伊勢に訪れる観光客に注目して～	P36	小林剛基（総政３年）他	これからの日本のエコツーリズム ～富士山、フライブルク市を事例に～	P53	白田章真（北摂三田高２年）	運動神経と水泳の関係
P20	孫光宇（総政M2）	超高層S造建物のモニタリングを想定した損傷推定法に関する研究	P37	信木斐登（総政３年）他	動物に関する意識調査	P54	木南智章（総政３年）	2008年以降の国政選挙における選挙予測
P21	坂井章（総政M2）	名所・旧跡に頼らない観光まちづくりについて ～兵庫県朝来市竹田地域を対象に～	P38	水野淳優（総政３年；Tijerinoゼミ）	BGMが及ぼす心理的影響について ～映画音楽を例に見る～	P55	石川美里（総政３年；宮川ゼミ）他	見捨てない、５万６千。～殺処分数減少に向けた保護犬・保護猫カフェの現状と課題～
P22	松本尚将（総政3年；山根ゼミ）他	よりよいコンパクトシティへ	P39	段強（総政３年；Tijerinoゼミ）他	ゲームの進化からみる依存症とその対策			
P23	嶋村美咲（総政3年；客野ゼミ）他	空地からはじまる〇〇～西脇の未来予想図～	P40	森槙子（総政４年；伊佐田ゼミ）	無料音楽配信ビジネスの可能性			

第2日（土曜日）

口頭発表

時間	A会場（Ⅱ-101）	B会場（Ⅱ-102）	C会場（Ⅱ-111）	D会場（Ⅱ-201）	E会場（Ⅱ-204）
9:00	A201 民主主義のルーツ ～私たちの家族と左翼勢力～ 前垣内薫（総政3年；柴山ゼミ）他	B201 ポケモンGOの改善案提案 太田一誠（総政4年；伊佐田ゼミ）	C201 日本の郊外住宅地における空き地問題 ～三木市緑ヶ丘町を対象として～ 森松利浩（総政3年；角野ゼミ）	D201 ソーシャルキャピタルからみた地域コミュニティの持続可能性 稲岡瑞希（総政3年；長峯ゼミ）他	E201 Differences about Japanese hospitality and other countries 下野栞奈（総政3年；Sawyerゼミ）
9:30	A202 Why are there differences between Japanese and German attitudes towards keeping dolphins in captivity in aquariums? A comparison of environmental awareness in both countries 足立晴香（千里国際高3年）	B202 生き抜く力 ～自分で自分の命を守る防災教育～ 角田菜月（葺合高1年）他	C202 子育てしやすい“まちづくり”って？ 吉田遥香（御影高2年）他	D202 やさしい日本語で外国人にやさしい神戸のまちへ 遠藤理紗子（兵庫高1年）他	E202 カンボジアを通して見えてきたこと ～発展途上国のために今私達ができること～ 関岡幸樹（関学高2年）他
10:00	A203 モロッコのアマジグ人～先住民族アマジグ人の宗教文化・ファッション～ 湯浅拓海（総政3年）	B203 シェアリング・エコノミーは地球を救う!? 町田志帆（総政3年；小池ゼミ）他	C203 KG Marche Project ～地域をよくするプロジェクト創り～ 笠松胡桃（関学高2年）他	D203 なにが日本の長期景気後退を引き起こしたか? ～動学的確率的一般均衡モデルを用いた実証分析～ 葦原彩人（総政M2）	E203 中国における賃貸住宅の普及に向けて 余舒敏（総政3年；山根ゼミ）
10:30	A204 Raising Poverty Lines for Women and Children: Effectiveness of Social Businesses 中村沙羅（千里国際高3年）	B204 中学生における自尊感情と演劇教育 永澤萌絵（葺合高1年）	C204 集まれ！地域の居場所へ ～子ども食堂から広げる輪～ 松下莉都（御影高2年）他	D204 高校生調査員が創る！「グージー食べ歩きマップ」 大森明（兵庫高1年）他	E204 Comparison of English education in South Korea and Japan 篠原美穂（総政4年；Sawyerゼミ）他
11:00	A205 The Possibility of academic improvement in colonized countries by English-speaking countries 片山菜束（総政3年；Sawyerゼミ）	B205 日本と台湾の大学生における幸福度調査 梶谷和矢（総政3年；伊佐田ゼミ）他	C205 略地図検索のための変形度分析に基づく特徴ベクトルの設計 成川健太郎（総政M1）	D205 NISAによる株式市場への影響 ～非課税投資のあり方とは～ 吉村太郎（総政3年；亀田ゼミ）他	E205 ミャンマーに置き薬を！ ～新ビジネスプランの提案～ 橋爪美弥（兵庫高2年）他
11:30	A206 日本ではなぜ殺した動物を供養するのか：太地町の古式捕鯨を例に挙げて 富口晴菜（千里国際高3年）	B206 Art Education in Japan 阪本朋花（葺合高2年）他	C206 地域と自然の共生とは ～住吉川のホタルの放流から考える～ 山本帆乃佳（御影高2年）他	D206 神戸ノートは神戸を救えるか～神戸ノートから考える人口流出防止策～ 清岡芳史（御影高2年）他	E206 The Possibilities of FIT (Foreign Independent Tours) 兼子奈生子（総政3年；Sawyerゼミ）
12:00	A207 市民の炭素税政策への賛同を得るために必要な政府の取り組みとは ～日本とEUの炭素税政策の比較～ 的場健吾（千里国際高３年）	**移動・休憩・昼食** **■午後のAcademic Commonsでの20周年企画に参加される方は、Academic Commonsのクレセントラウンジに軽食をご用意しておりますので、そちらもご利用下さい（数に限りがあります。お早めに移動下さい）。**			
12:30					
13:00	**総合政策学部＆総合政策学部同窓会共催20周年記念大会企画（@Academic Commons）** **■卒業生によるシンポジウム「総合政策、リサーチ・フェア、そしてキャリア」** **■卒業生による「アポなしOBOG訪問」（卒業生が在学生と就活、仕事、キャリアを語り合う場）** **詳しい内容はpp.30～35をご覧下さい。**				
13:30					
14:00					
14:30	**各賞受賞者発表・全体講評（Academic Commons）**				

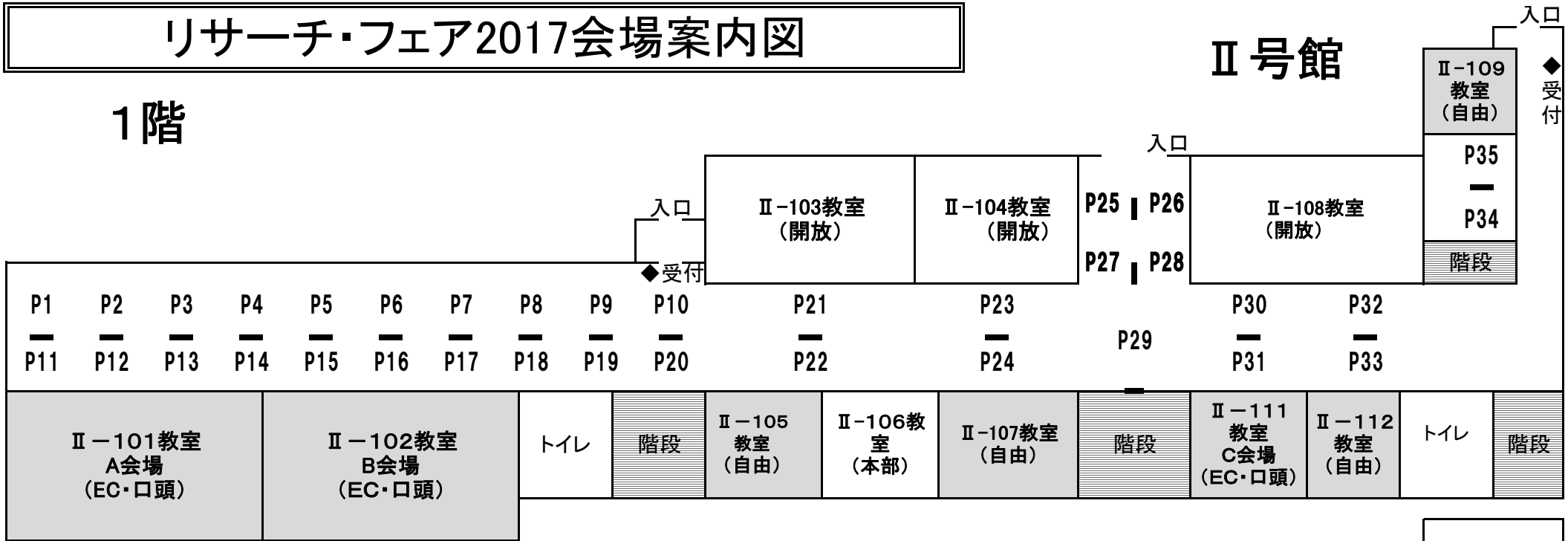
自由形式

Ⅱ-105	Ⅱ－305
自由形式8 ■10:00～12:00 国際社会貢献活動を通して～マレーシア、インドネシア、ドイツより～ 出田志帆（総政4年；村田ゼミ）他	自由形式9 ■10:00～12:00 禁煙は本当に幸せな社会をつくるのか～喫煙所を通して見えるもの～ 築家佑介（総政3年；津田ゼミ）

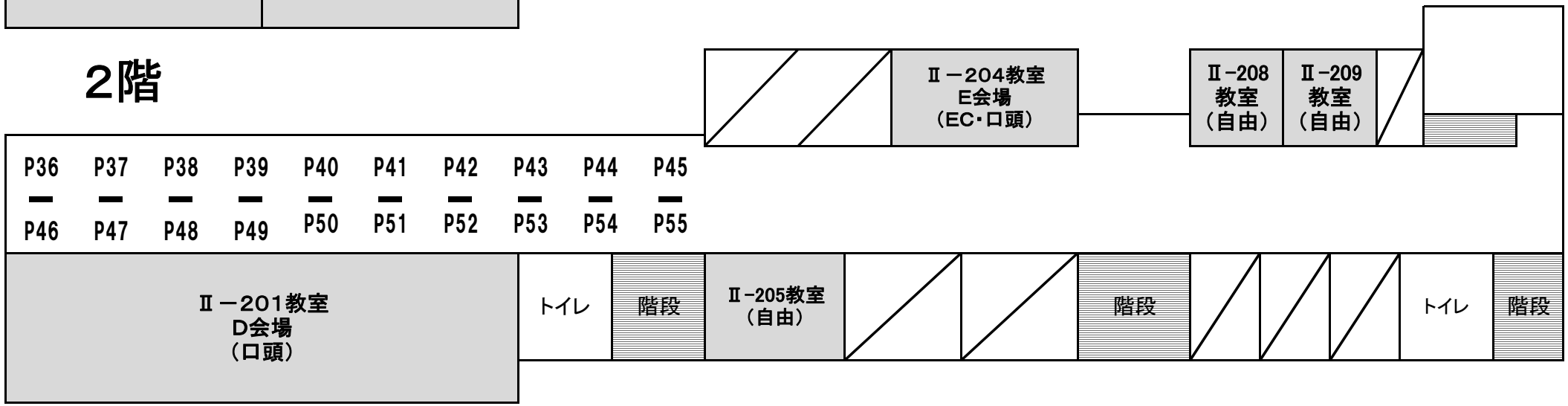
リサーチ・フェア2017会場案内図

Ⅱ号館

1階

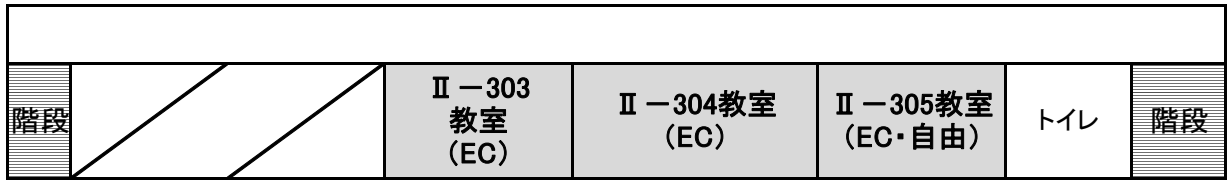


2階



口頭： 口頭発表会場
Ｐ：ポスター用パネル（当日、配置変更の可能性もあります）
自由： 自由形式会場
ＥＣ： English Communication Presentation会場
第20回記念企画はAcademic Commonsで開催
会場図はp. 30

3階



Research Fair 第1日（11月17日［金］）

Research Fair EC Presentation Schedule 2017
（9:00～10:30）

■学外から来られた高校生の皆様へ
　発表中の教室への入室は厳禁です（9:00、9:30、10:00の入れ替え時のみ入出可）。
　教室のスペースで、学外からの高校生の方等の入室受入数に制限があります（下記注意）。
とくにⅡ-111、Ⅱ-303は教室が狭いため、入室できません。

教室	9:00～9:25	9:30～9:55	10:00～10:25	学外者受入数
II-101	**Homelessness** *Akimi Adachi* *Mai Sugo* *Mika Mochizuki*	**Income Inequality** *Aisa Yamamoto* *Misaki Yonemura*	**Income Inequality** *Aisa Yamamoto* *Misaki Yonemura*	高校生の方等は60名まで受け入れ可能です。
II-102	**Homelessness** *Shuto Minami* *Yoshitomo Nakada* *Azumi Enomoto*	**Obesity** *Kotomi Fujii*	**Refugees** *Meg Obata* *Sayaka Okubo* *Yukiko Yoshida* *Shuka Nagayama*	高校生の方等は80名まで受け入れ可能です。
II-111	**Refugees** *Mei Nakanishi* *Heejin Yoon* *Naomi Motozaki* *Maho Shinsakaue*	**Species Extinction** *Keito Taniguchi* *Marin Koike* *Chihiro Ueyama* *Yuki Matsuo*	**Species Extinction** *Keito Taniguchgi* *Marin Koike* *Chihiro Ueyama* *Yuki Matsuo*	教室が狭いため、申し訳ありませんが、高校生の方等はご遠慮下さい。
II-303	**Obesity** *Hinata Tamura* *Kanoko Shoda* *Sakurako Yamashita* *Nami Akao*	**Climate Change** *Arisa Neki* *Kalina Ozawa* *Ayumi Kanaoka* *Mana Ando*	**Climate Change** *Arisa Neki* *Kalina Ozawa* *Ayumi Kanaoka* *Mana Ando*	教室が狭いため、申し訳ありませんが、高校生の方等はご遠慮下さい。
II-304	**Obesity** *Rica Nagashima* *Miyu Takeda* *Mariko Urata* *Rina Hiraoka*	**Income Inequality** *Satoru Miyawaki* *Tomoki Teshima*	**Income Inequality** *Satoru Miyawaki* *Tomoki Teshima*	教室が狭いため、高校生の方等は20名が限度です。
II-305	**Refugees** *Keito Nakagawa* *Maiko Yamane*	**Homelessness** *Kyo Chisaka* *Anna Suzuki* *Rikako Nishimura* *Kanon Inoue*		教室が狭いため、高校生の方等は20名が限度です。

第1日（11月17日）口頭発表A会場（Ⅱ号館101教室）

11:00	**みなべ町の避難環境に関する研究** *大向信也（総政3年；照本ゼミ）・生水義哉・黒田直孝・曽根奈々恵・佐野晴香* 今日南海トラフ地震が30年以内に高確率で発生すると言われており、それに対する対策を取るべきだと考えられている。その中で中山間地域に焦点を当て、事例として和歌山県みなべ町を取り上げ調査する。これは現在までに中山間地域に限定された避難環境に対して、充分に検討された研究が少なかった為である。既往研究と照らし合わせながら生活環境を講じるための素材を得ることを目的とし、みなべ町でのヒアリング調査や社会調査等をまとめ、中山間地域の避難環境に対する施策を検討していく。
11:30	**津波避難に対する住民の意識と地域特性～御坊市を事例に～** *長野里菜（総政3年；照本ゼミ）・西永昂司・常木佳歩* 2011年3月11日に発生した東日本大震災を契機として津波避難対策の見直しが進められている。一方で、地域住民が避難方法や具体的な対策を講じているかは明らかではない。そこで、避難訓練に参加した住民の災害に対する意識、地域の空間認知などから津波避難に対する意識の差を明らかにする。
12:00	**自然災害に関する財政学アプローチによる実証分析～サーベイと展望～** *北岡佑太（総政M2）* 近年、自然災害が多発している日本では、災害による被害額の推計をはじめ、復興予算やそれに伴う増税、被災地自治体の財政など、さまざまな領域で研究が行われている。個々の自然災害についての実証研究は多いが、これらの研究をまとめたものは、筆者の知る限り存在しない。そこで本研究は、自然災害の財政学アプローチを中心に、その分析手法をサーベイすると共に、日本における自然災害の実証分析を包括的にサーベイする。また、今後の実証分析の可能性を展望し、今後の災害に向けての政策インプリケーションを探る。
12:30	**日本社会は持続可能か～東北被災地の復興にみる地域社会の持続可能性～** *井上裕大（総政3年；長峯ゼミ）・河内里絵香・木村淳之介・平花音・矢野亨枝* 近年、日本は人口減少という社会問題を抱え、一部地域では自治体消滅すら危惧されている。東北地方もまたそうした人口減少に直面してきた地域であるが、とりわけ東日本大震災の被災地では、震災後、その人口減少がさらに一層加速している。こうした東北被災地の現状は、ある意味で人口減少に悩む日本社会の将来を先取りしていると言える。本研究では、東日本大震災によって浮き彫りになった地方の人口減少という問題を、被災地の復興と持続可能なまちづくりという視点から検討・考察し、今後の日本社会の持続可能性についての示唆を得る。
13:00	**Creating a platform for open innovations in provincial cities: A case study of Osaka** *辛嶋楓（総政2年）・佐本朱理（総政3年）・宮本麟太郎* What will happen if we can promote innovation in Japan? Our presentation focuses on open innovation platforms in provincial cities, especially in Osaka. According the innovation cities index, Japan's innovation ranking has been rising. However, Osaka, the third biggest city in Japan, has dropped it's ranking because of the inequality between capital cities and provincial cities. To solve this problem, we will search on how can we establish a platform in provincial cities to give more opportunities for opening innovation by comparing with a domestic case (Tokyo) and two international cases (Munich, Tel Aviv). Based on the above, we will propose how these ideas can lead to a strong platform in Osaka.
13:30	**How to Help Decongest Metro Manila Traffic～Comparative Study on Actual Condition of TOD from the Viewpoints of Components～** *宮本麟太郎（総政3年；角野ゼミ）* By the population growth and population inflow to the urban areas in developing countries especially in Southeast Asia, there are chronic heavy congestion. Metro Manila, the capital city of the Philippines, is also one of the most remarkable cities with it. One of the solutions of this is to develop the area with the concept of Transit-Oriented Development (TOD). In the presentation, I, Rintaro will show you the situations of TOD in Metro Manila. Then I will provide a result and propose an effective solution which decongest and promote TOD in the areas.

15:00	**日本における民泊のあり方～民泊の実態とは～** *久保恭平（総政3年；山根ゼミ）・高橋綾乃・塩崎響子* 現在、空き家問題や東京五輪の開催に伴い日本で注目されつつある「民泊」であるが、法に関する問題や、利用者・運営者・近隣住民間のトラブルなどさまざまな問題が発生している。そこで本研究では、民泊に関する法律に着目し、それらの比較と今後起こりえるだろう問題の予測をし、解決策を提案する。また、実際に起こっているのではないかという問題を考え、利用者・運営者・近隣住民等、さまざまな方面からヒアリング調査を実施することで民泊の実態を知り今後について考えていく。
15:30	**What Should Japan Do To Icrease the Number of Repeat Tourists?** *二階堂倫子（総政2年）・吉原愛実・中村美喜* Japan is one of the popular destinations for travelers in the world. The Japanese government aims to develop tourism industry for the Tokyo Olympic in 2020, and the government have already started to ready. The number of tourists from other countries to Japan is increasing, but we think it is important to increase the repeat tourists for further development. In this research, we compare tourism policies with other countries, analyze the relationship between transportation and Japanese tourism, and consider the way to increase repeaters coming Japan.
16:00	**ファッション都市として繁栄する地方都市の産業振興** *築出明紀（総政3年；斎藤ゼミ）* 輸入品の増加や他都市への人口流入が原因で地方都市の地場産業が衰退傾向にある。一方で、産地を再生させ、地域全体の活力を溢れさせるべく改革を進める地方都市が存在している。本研究では、産業振興が功を奏した結果、ファッションタウン化に成功した愛媛県今治市と、地場産業の播州織を市のブランドとするべく、ファッション都市構想を掲げた兵庫県西脇市の2つの都市を採択し、2つの都市がいかにして地場産業を再生・強化しているか。また、産業振興の結果として、産地の活性化が地域全体の活性化につながっているかを分析する。
16:30	**コットンのまち西脇～西脇コットンブランド化を目指して～** *田中翔子（総政3年；客野ゼミ）・田中翔子・上野利恵・大林碧・福島慶泰* 兵庫県西脇市は、少子高齢化や観光資源の不足などの問題を抱えている。その問題解決として西脇市で栽培されているコットンに着目し、綿花の栽培や地場産業である播州織との連携を図り、西脇市をコットンのまちとして発信することを提案する。研究はヒアリング調査や気象データの分析を中心に進める。“西脇コットン”ブランドの確立により、新たな雇用機会やコットンを活かした特産品の創出と共に西脇市の知名度の向上につなげる。さらに、各家庭にコットンの苗木を支給し、地域全体においてコットンのある美しい街並みの形成を目指す。
17:00	**美しい街並み政策！** *来嶋佑太（総政3年；関根ゼミ）・髙田悠生・福西里菜・朝日孝典・戸田亮介・松本隆* 普段私たちが街を歩くとき、何気なく目に入る景観の美しさに足を止めたり思わず写真を撮ってしまったりすることがあると思います。そんな街の景観は、偶然できたものではなく、それまでに各自治体や市民たちの絶え間ない努力の上に築き上げられたものなのです。私たち関根ゼミでの法の学び、フィールドワークでの街歩きの気づきを活かして、街の景観を維持するための政策について発表します。みなさんがこれからもっと街歩きを楽しめるよう、一緒に景観について考えてみませんか。
17:30	**ゼロ・ウェイスト運動とは～徳島県上勝町フィールドワークの報告～** *馬淵奈々子（総政3年；関根ゼミ）・川又諒介・鳥田朱里・古谷祐介・山中紗花* 現在日本では、埋立地問題やごみ処理による環境汚染など、さまざまな問題が起こっている。「ごみは燃やすもの」とする日本の中で、「できるだけ燃やさない」と焼却、埋め立て処分となるごみをなくす、ゼロ・ウェイストを採用・検討する自治体がいくつか存在する。日本で初めてゼロ・ウェイスト宣言を行った徳島県上勝町でのさまざまな取り組みとその意義について観察したものを報告する。この地域モデルは、これからの日本の環境問題、また現在日本が直面している高齢化問題の解決に向けて良い影響をもたらすであろう。

第１日（11月17日）口頭発表B会場（Ⅱ号館102教室）

11:00	**E-Commerceにおける不満情報とレビューに基づいた不満解決商品推薦手法の提案** *林利憲（総政M1）* 近年、あらゆる技術が生活に取り入れられ便利になっている一方、SNSやレビューサイトにおいては生活に関わる多くの不満が投稿されている。本研究では、このような人々から生じる不満を検索することで解消する不満解消検索エンジンの開発を提案する。提案システムでは、不満を選択、もしくは入力することで、不満の解消商品や事柄を提示する。本発表では、商品に対する不満に絞り、E-Commerceにおける不満解消商品推薦システムについて述べる。このことにより、ユーザは潜在的な不満から商品を検索でき、特に買替時において的確な商品選定が可能となる。
11:30	**口コミサイトにおける投稿画像を利用したユーザのコスメアイテム選別支援** *長濱卓範（総政４年）* 近年オンラインショッピングサイトでは商品選択の幅が広がり、選別が困難になった。そこでオンラインレビューにより商品選別が支援されるようになったが、現在そのレビュー件数も多くなり、全てを閲覧して比較することは困難になっている。そのためレビューを活用する研究が多くみられる。その多くの研究対象はテキスト本文であるのに対し、レビューに投稿される画像に着目する。画像が投稿されるコスメアイテムを対象とし、商品使用画像の可視化手法を利用した商品選別支援手法を提案する。
12:00	**レシピ動画の調理動作区間に基づく難易度判定** *秋口いくみ（総政４年；角谷ゼミ）* 近年、調理の手順を短くまとめた料理動画が普及し、レシピサイトやSNSで多くの料理動画が人気を集めている。しかし、レシピサイト等に存在する料理レシピは膨大な数にまで増加し、一見するだけでは自分にあったレシピを判別できないのが現状である。そこで、今回は調理の手間や作業量に注目した難易度を設定し、料理動画から調理動作区間に基づいて難易度を判定することによって、ユーザにあった料理レシピを推薦し、円滑なレシピ検索の手助けを行うシステムについて考える。
12:30	**現代のフェイクニュース問題** *坪井理沙（総政４年；Tijerinoゼミ）・村松由樹* スマートフォンの普及により、SNSの利用者は年々増加傾向にある。その利用の仕方は、近況報告、雑談、連絡手段、情報収集と様々である。しかし、「嘘」の情報、「フェイクニュース」が問題になっている。例えば、2016年アメリカ大統領選挙では、「トランプ氏がローマ法王に支持されている」というフェイクニュースが広がってしまい、大統領選挙に大きく影響を与えたといわれている。このフェイクニュースについて調査し、それに対する対策を提案する。
13:00	**迫り来るフェイクニュースの脅威** *坂本蓮太郎（総政３年）・田中祐紀・松岡亜希美・市原朱利・山田有美* この発表では、フェイクニュースが世論を形成することの危険性を示す。まず、世界におけるその歴史や定義を明確にする。次に、その影響力や危険性を示しフェイクニュースがどのようなものか再確認する。そして、日本でどのようにフェイクニュースが受け止められているかを取り上げる。更に、危険性に対する意識等についてアンケート調査を実施、結果を示す。加えて、スマートフォン所有者やSNSユーザーの急激な増加を示すことでフェイクニュースの爆発的拡散の潜在能力を指摘する。最後に、情報教育改善による対策の提案を行う。
13:30	**音楽の可能性～音楽を聴くとどのようなことが起こるのか～** *江坂孝祐（総政４年；Tijerinoゼミ）* 私たちは、日々、様々な音の情報を耳から取り入れ、その情報をもとに数多くの判断をしている。例えば、自動車がバックをする時に「ピーッピーッ」という音が鳴るようなものがある。この音を聴いた運転手は、自分の車がバックギアに入ったということを目で確認しなくても判断することができる。また、周りにいる人たちも、車がバックしてくるということを知ることができる。今回の発表では、音が持っている様々な力について説明し、それらの力が今後どのようにすれば、より活かすことができるのかについて、考察・提案する予定である。

15:00	**官民ファンドの実態と今後のあり方について** *中村聡太（総政3年；亀田ゼミ）・加藤優可子・井上奈緒子* 第二次安倍政権発足後、日本再興戦略として政府と民間との共同投資をもとに、企業や民間の事業に対して出資や貸付等を行う「官民ファンド」と呼ばれる機構が活発に設立された。各機構による投資事業では、政府からの資金が投入されている以上、国費が有効活用される企業や事業に投資を行うべきである。しかし、現在では14もの機構が乱立し、実態や実績が明らかになっていないものが多く不透明性が指摘されている。本研究では、官民ファンドの実態を明らかにするとともに、これからの官民ファンドのあり方を問う。
15:30	**なぜ日銀のインフレ目標は達成されなかったか？～賃金と物価間の関係性考察とDSGEによる分析～** *高島渓太（総政3年）・岡本和己・水口莉子・矢冨智大* なぜ日本の物価は上がらないのか？日銀は黒田総裁のもと、異次元の金融緩和を行うことで2%物価安定を目指したが、現在も達成されていない。デフレ脱却のための金融緩和に対して懐疑的な意見も多数だ。他方、賃金上昇は物価を引き上げる作用を持つ。日本の長期デフレを抜け出し、物価上昇を促すためには、賃金上昇が欠かせない。しかし、ITの発展や、働き方改革により労働、企業の生産性は高まる一方だ。賃金上昇のために何ができるか。労働市場と金融緩和についてマクロ経済分析を行い、物価上昇の方法を考察する。
16:00	**政府による将来世代への教育投資のあり方～世代重複モデルからみた最適な投資の数理モデル～** *金定賢（総政3年；亀田ゼミ）・高井龍太・阿部百華* 日本の財政は、対GDP比200%を超える赤字に直面している。この深刻な事態を打開するには、財政収支を健全化させるしかないが、その為にできることは大きく分けて2つだ。1つは、歳入を増加させる方法で、もう1つは歳出を減少させることだ。後者の歳出を減少させる方法について考えると、我が国の予算のおよそ1/3を占める社会保障費は増加傾向にあり、国民の生活の根幹に関わるものなので減らすことは難しい。他のものについても、同じことがいえる。となると、歳入を増加させるよりほかにない。我々は数ある方法の中でも、将来世代の賃金を増加させ、結果として財政健全化に貢献する、といった教育投資のあり方を考えたい。
16:30	**働きすぎは当たり前？～断れない日本人の心に迫る～** *岡崎真由（総政3年；細見ゼミ）・羽山かれん・山本佳奈・西川桃香・谷口聡・常深謙三・村尾大希* 近年、日本の劣悪な労働環境が問題視されている。その背景のひとつに長時間労働があげられる。長時間労働が原因で過労自殺や現代型鬱病が引き起こされる。日本政府は、労働時間短縮のため様々な法や制度の策定や改正を繰り返しているが、労働環境の悪化は進行している。この制度や法以外にも大きな問題があると私たちは考える。それは、日本人の労働に対する倫理観だ。長時間労働を断れない心理、働くことを美徳と考える風潮が長時間労働を促進している。このような日本人の労働倫理を明らかにし、労働環境改善に向けての政策を提示する。
17:00	**女性のチカラは無限大！～労働市場における女性参加を考える～** *田盛結菜（総政3年；坂口ゼミ）・時武佳奈・巽音・澤田和奈・丸山桂・三宅絵馬・崔ユリ* 近年、安倍政権が女性の活用を今後の成長の柱と位置づけたことで「ウーマノミクス」が注目されている。女性は日本最大の潜在能力と言われており、女性が輝く日本の実現に向けて、女性活躍推進政策が打ち出されている。しかしながら、政府がそのような取り組みをどれほど重要と考え、どのくらい実行に移せているのかに対しては疑問が残る。そこで、政府が掲げる政策の内容を研究し、課題や展望を明らかにする。その上で、日本の女性が活躍できるように多様な働き方を認め、女性の選択肢を広げる方法を現在の日本の政策を基に検討する。
17:30	**マスコミ各社の世論調査結果の比較検討** *大山康平（総合政策研究科M1）* 一般市民の政治的意見・スタンスなどを調査しているのが「世論調査」である。日々世論調査の結果が報じられ、調査主体（マスコミ各社：以下単にマスコミとする）によって結果が違うこともある。なぜマスコミによって結果が違うのか。そこで本研究では、公表されている世論調査の内閣支持率などのデータを収集し、そのデータに統計解析を施し、調査主体間や調査方法間に統計的有意差はあるのかなどについて検討しその考察を行う。

第1日（11月17日）口頭発表C会場（Ⅱ号館111教室）

11:00	**ファッションで農業業界を豊かに　～農業と流行～** *吉村咲良（総政3年；今井ゼミ）・山本玲菜・畠中貴巨・山岸高大* あなたは農業についてどのようなイメージを持っていますか？現在、農業就職者は減少傾向にあります。そこで私たちは、その農業に対するマイナスイメージを払拭し、農業就職者を増加させるべく、農業ファッションショーや現在、一般的に人々に使用されている農作業着など、様々な観点から農業の実状を調査し、農業に対してみなさんにプラスイメージを持ってもらい、人々の農業への関心を高めるため、プレゼンテーションという形で農業について伝えたいと思っています。
11:30	**Sustainable Agriculture for the Earth** *甲田凛（京都学園高1年）・完山恵笙・福井菜沙* Do you know how much CO_2 is emitted during vegetable production? Over 1.8kg CO_2 is emitted by making just 1kg green pepper. Is this agriculture sustainable? The answer is “NO”. If this situation continues, we will not be able to live in the earth. It causes sea level rise, food shortage by drought and so on. To live in the earth in the future, we have to take measures to agriculture. In our presentation, we will suggest a measure to reduce CO_2.
12:00	**食料廃棄の再利用方法について。** *中澤樹（総政3年；細見ゼミ）・安田凌・幸野宏望・山元雛海・堂上智世* 2050年に、世界規模での食料危機が起こると言われている。また、現在の日本に目を向けると、レストランや小売店において、大量の食品ロスが発生し、多くの食料が捨てられている。そして、このことは大きな社会問題となっている。私たちは既存のデータ等を用いて、廃棄された食料を資源として再利用する新たな手法について考える。
12:30	**農業からみた日本社会の持続可能性** *眞鍋由羽（総政3年；長峯ゼミ）・安蒜菜美・亀井利恵・鈴木悠介・山田未侑* 日本はこれまで輸出を増やすことで経済成長を続け、先進国へと経済発展してきた。その一方で、国内農業の保護と市場開放圧力への対応ということに腐心してきた。とりわけ米は日本人の生活・文化の拠りどころとして、それを例外扱いしてきた。しかし国内では、米をはじめ農業保護政策を採ってきたのであるが、産業として自立できず、高齢化、後継者不足、地域社会の衰退、米離れ、自由化に伴う輸入農産物の増加によって、持続可能性という点で重大な危機に直面している。本研究では、これまでの農業政策を振り返りながら、日本の農業が抱える問題を整理し、持続可能な産業として自立するための方策について検討する。
13:00	**Life on Land** *人見玲奈（京都学園高1年）・上田愛華・辻雪輝乃・林瑞穂・高田結菜* 私達は、SDGs＃15「陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、並びに生物多様性損失の阻止を図る」について調べ、その中でも、生物多様性の保全に焦点を当て、その原因として森林破壊による原生林の減少を挙げました。さらに、その減少の原因を、現代のプランテーションの問題や非伝統的な焼畑農業など、食料・農業分野の改善すべき点と結びつけて調査しました。生物多様性の損失が、どのような悪影響を及ぼすかについても説明します。英語での発表となります。
13:30	**フィリピンにおけるレジ袋問題について～ヌエヴァ・ヴィスカヤ州を事例として～** *小池貴子（総政M1）* 現在、大量に消費され廃棄されるレジ袋は世界中で大きな問題を引き起こしている。フィリピンはプラスチックごみの海洋排出量が世界第3位であるが、海洋生物への影響だけでなく、下水道に詰まったレジ袋が洪水の被害を拡大させるなどといった問題が起こっている。近年スーパーマーケットがオープンするなど発展が進み、今後さらにレジ袋の消費量が増加すると予想されるフィリピンのヌエヴァ・ヴィスカヤ州を事例として、9月に行った現地調査の結果を用い、レジ袋の問題にどう対処すべきかを考察する。

15:00	**ショッピングモールにおける経営戦略～モール事業への提言～** *岩崎隆馬（総政3年；古川ゼミ）・川原綾花・坂本耕太* ショッピングモールは大規模小売店舗法が廃止されたことにより、店舗数が増加傾向にある。だが、消費者需要を超える出店の波を受け、コンセプトが曖昧なモールが多く存在するのが現状だ。そのため、新たに出店する上では顧客ニーズを考えた店舗構成の工夫がこれまで以上に重要となると考え、今後は法的な出店規制の動向、消費志向やまちづくりなどの様々な視点でモールの存在意義をより深く考える必要がある。今回のリサーチを通してモール事業の成功を洗い出すことで、今後の展開に貢献できると考える。
15:30	**オリーブ石鹸でこうべっぴん～オリーブ石鹸の販売戦略～** *足立あきほ（総政3年；古川ゼミ）・岩崎あゆみ・黒田眞里絵・三川真子・山下華・湯浅麻依子* 古川ゼミでは毎年Mラボという神戸新聞主催の研究インターンに参加しています。そこでマッチングさせていただいた澁谷油脂様の経営課題の解決案を考えました。販売対象や販売形態が不明確であるということからマーケティング戦略不足を経営課題としてあげました。分析方法としては、SWOT分析やSPSSを用いたクラスター分析・一元配置分散分析を用いました。発表では、社長様の思いがつまったオリーブ石鹸を中心として、この経営課題を解決する案を提案します。
16:00	**関西クラフトビールの販売戦略** *長谷晃一郎（総政3年；古川ゼミ）・淡島良太・圓尾和穂* 日本におけるビール産業において大手4社（キリン、アサヒ、サッポロ、オリオン）が独占しているのが近年までの現場であった。しかし、最近になってヤッホーブルーイング社を筆頭にクラフトビールの熱が高まってきている。関西圏にも箕面ビールなどのクラフトビールが多種存在している中、クラフトビールはまだまだコア層にしか知られていないというのが現状である。このクラフトビールを世に、一般に、若者に、広げていきたい。その一心で、クラフトビールの販売戦略を発表しようと思います。
16:30	**地域と共に創りあげる魅力発信のシティプロモーションとは** *光田稀一（総政3年;清水ゼミ）・小西隆弘・須釜聡子・田村妃奈代* 現在、全国の自治体はシティプロモーションを新たな施策と定め、地域活性化に取り組んでいる。しかし、現実は行政による独り歩きの取り組みが目立ち、最も重視すべき「地元の人が地域に関心を持ち、行政と共に地域の魅力を創りあげていく」という点が見失われているのではないだろうか。本研究では、行政で働く人々と若者、双方への調査をもとに、地域の人々をシティプロモーションに取り込むために必要な要素を見つけ、人々は行政に何を求めているのかを解決する。そして、行政が地域住民を共に歩んでいくためのシティプロモーションについて提案する。
17:00	**なぜ、若者の生活満足度は高いのだろうか？** *福岡宏基（総政3年；四方ゼミ）・安藤有生菜・向田美優* 「あなたは今の生活に満足していますか。」と質問された時、あなたはどのように答えますか？今、若者の生活満足度が高いことが注目されており、インターネットで検索すれば、簡単に論文を探せるほどなのです。ここで、一つ疑問が浮かばないでしょうか。「なぜ、若者の生活満足度が高いのか」と思われなかったでしょうか。私たちもその疑問から関心を持ち、今回「若者の生活満足度の高さ」をテーマにし、その要因についてデータで分析、そして、立てた仮説を検証し、それを発表していきます。
17:30	**Why are Japanese people said to lack certain thinking abilities?** *奥内麻友（総政3年）・舟橋友羽・西川由菜* Our presentation focuses on Japanese people's ability to think. There are data that show that on average, Japanese People have good academic abilities. For example, Japan held a superior position in the Programme for International Student Assessment（PISA) which is an international survey that happens every three years. However, Japanese people are said to lack certain thinking abilities compared to other countries. Due to this, the government has recently started to address this problem. Our presentation's goal is to find out if Japanese people really do lack a certain thinking ability, to identify it, and then, to analyze what causes this result.

第１日（11月17日）口頭発表D会場（Ⅱ号館201教室）

11:00	**日韓同盟～対北朝鮮安全保障の観点から～** *平野歩（総政３年；柴山ゼミ）・市田優斗・内芝理子・大上明莉・垣内彩花・西尾文香・松本淳仁・山根祐美・吉川未栞・岡田理香（総政４年）* 北朝鮮が核実験を強行し、弾道ミサイル実験を繰り返し行うなかで、極東アジアの緊張が高まっている。それに伴い、日本国内においてミサイル防衛や敵基地攻撃能力、非核三原則の見直しといった国家安全保障に関する議論が盛り上がっている。そのような議論の多くは、日本の能力や米国との協力に焦点が当てられる。しかし、朝鮮半島の当事者である韓国がこの対北朝鮮安全保障議論において語られることは少ない。だが、本議論で、韓国との関係が扱われないのは由々しき事態ではないだろうか。安全保障の観点から日韓関係を見つめ直す。
11:30	**100万「元」の夜景？～香港の一国二制度は続くのか～** *岩佐奈美（総政３年；井上ゼミ）・内山沙耶・谷口千月・吉廣望・西川捺美・竹内淳・村井楓子・北村豪史・伊藤聡美・小森鈴夏・高橋翼大* 香港は、中国の中の特別行政区のひとつであるが、中国本土とは異なる政治・経済体制をもつ特別の地域である。この体制を「一国二制度」といい、１９９７年の香港返還時に、この体制を５０年間維持することが合意されている。返還から２０年たった今、現地では若者を中心として「香港人」としてのアイデンティティーが高まっており、現在の体制に不満をもつ人々による運動もおきている。このような現在の香港の状況をふまえ、３０年後の香港において「一国二制度」が存続するか、終わりを迎えるのかをさまざまな面から検討する。
12:00	**潤う食卓の裏にあるMOTTAINAI** *山辺浩未（総政３年；園田ゼミ）・山内和貴・花岡里紗・溝口玲衣・並松匡史・西村佳哉子・中林篤寿* 2015年9月の国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）では、「飢餓をゼロに」を17目標の一つに掲げ、「小売りや消費段階での食料廃棄」を減らすという具体的目標に言及している。現在、世界中で生産される食料の約3分の1が毎年ゴミとして廃棄されており、こうした食品ロスは、飢餓に苦しむ8億以上の人々の食料分を超えるといわれている。このような矛盾に対し、食品廃棄大国とよばれる国の学生として、日本の「もったいない」の精神を再考し、国内問題への取り組みをどのように国際社会全体の課題解決に役立てることができるか検討したい。
12:30	**食料廃棄とロスが加速させる気候変動** *赤松景政（京都学園高１年）・加藤綾梨・万福なつき・神嶌萌花・島田真維* 私たちのグループでは食・農業分野が気候変動にどのような悪影響を及ぼしているかについて調べました。気候変動はたくさんの要因から引き起こされますが、今回私たちは温室効果ガスの排出という最も人為的な要因を主に調査しました。温室効果ガスは食・農業分野から多くの方法で排出されますが、今回私たちは純粋な排出量だけで見るのではなく、問題一つ一つの原因や繋がりについて考え、SDGsの達成に向けて貢献できることがあればと考えています。英語での発表となります。
13:00	**After Cooperation～フィリピン農家の未来について～** *大西貴大（総政３年；西野ゼミ）・河本歩・須原千晴・中村愛梨* 今日、開発途上国の労働人口の約半数が農業を生業としている。つまり、農業は開発途上国では最も重要な産業の１つと言えるだろう。しかし、農業は、気候変動や自然災害などの影響を非常に受けやすい産業であるため、外部からの支援に依存しがちである。今回、私達は実際にフィリピンのヌエバ・ビスカヤ州の農村に赴き、農家の現状についてインタビューを通して調査を行った。その調査結果を基に、どのようにすれば農家自身が自立的かつ持続可能な事業を行うことができるかを考察し、その実現にむけた政策提言を行う。
13:30	**責任ある消費と生産** *木村優月（京都学園高１年）・目賀文菜・上松理紗子・城下渚・野田薫子* 私たちはSGH校の課題研究として、SDGs（Sustainable Development Goals）を研究しています。その中で、私たちは#12「つくる責任　つかう責任」をメインに、現状や課題点、その中で1番の問題点についてリサーチしています。研究を重ねた結果、「食料廃棄」にたどり着きました。その深刻さについて知ってもらい、SDGsの達成に向けて提案できたらと思います。英語での発表となります。

15:00	**トランプ政権の外交・安保思想** *田中雄大（総政3年；小池ゼミ）・湯本寿梨・松浦楓・大家美有紀・中島太一・林湧一朗* 2017年1月20日、アメリカ合衆国でドナルド・トランプ大統領が誕生し、トランプ新政権が始動した。政治家としての経験がなく、過激な発言などで大統領選挙中から多くの批判を受け、「予測不可能」、「孤立主義」などと多くの専門家や評論家から評されてきた。しかし、その中で選挙戦を勝ち抜き、多くのメディアや専門家がトランプ大統領誕生を予測できなかったが、大統領に就任する結果となった。そこで、トランプ政権の外交方針はどのような思想に基づいているのか、またそれによってトランプ政権が何をしているのかの現状の分析とこれからの展望を考える。
15:30	**国際連合安全保障理事会における各国の影響力の格差～シャープレイ値による分析～** *延東知孝（総政4年井垣ゼミ）・中島理沙子・早川健悟・田町竜也* 本研究は国際連合安全保障理事会における採決の際、現在の採決の仕組みでは常任理事国と日本をはじめとする非常任理事国の影響力の差がどれだけあるのかをシャープレイ値を用いて分析する。シャープレイ値とはある国がキャスティングボート（議題が採決されるか、否決されるか、どちらになるか決まらないとき、それを決定することができる力)を握る確率のことである。また、現在の国際連合安全保障理事会の採決の仕方とは異なる採決の仕方を提案し、双方の各国の影響力の差に違いがどれほど出てくるのかを分析する。
16:00	**中国の海外進出～アフリカを事例に～** *佐本朱理（総政3年；坂口ゼミ）・奥村美有希・野間勇希・武田玲翔・濱口真由・桜井結衣・森口侑希奈* 私たちは「開発」をテーマに「アフリカ大陸における中国の援助、投資」の問題を取りあげる。中国は、しばしば、その援助・投資において、先進国グループであるOECD諸国から批判されるが、その批判は本当に妥当であるのか？その問いを、中国のアフリカ大陸における援助を事例にあげ考察する。開発とは何か、欧米・日本の既存開発に対する考え方と中国の開発に対する考え方はどう違うのか。近年、グローバル社会の中で着々と存在感を増す中国の援助政策のロジックをアフリカでの事例から明らかにする。
16:30	**Village Homestay Tourismが促す包括的な地域開発～東ネパールSri Antu村の取り組みを事例に～** *内藤早百合（総政M1）* エコツーリズムの一形態であるVillage Homestay Tourismは、自給自足の住民の暮らしや文化、自然環境を守りつつ、地域の経済的発展が期待されるとして、近年主に農村部での注目が集まっている。ネパールの最東端イラム県に位置するSri Antu村も2000年より村全体が従事するホームステイ事業を開始した。約17年が経過した現在、村は年間約4万～5万人が訪れる国内でも名の知れたエコ観光地となっている。本発表では今夏に現地にて行った調査データを元に、本事業が地域社会にどのような影響を与えているのか、そして今後国外へと対象を広げていく上でどのような課題が予測されるのかを考察する。
17:00	**アンパンマンのマーチから考える～フィリピンの現状と学生の取り組み～** *瀧尻和子（総政3年）・岡田優苗・河本優香* “何のためにうまれて、何のためにいきるのか？”…多くの人にとって馴染み深いアンパンマンのマーチは、“存在意義”について問いただしています。私たちは、フィリピンフィールドワークでストリートチルドレンやゴミ山で暮らす子どもたちが抱える想像を絶する問題を目の当たりにし、私たちと彼らの間にある“存在意義”の定義のギャップに関心を持ちました。子どもたちが抱える問題を、具体的データを用いながら訴え、フィリピンで感じた熱い思いを“存在意義”の在り方を問うアンパンマンのマーチと共にお届けすると同時に、私たち学生だからこそできるActionを提唱します。さあ学生達よ、今たちあがれ！
17:30	**旅が人生を豊かにする！～世界の旅人の生の声～** *坂口将平（総政3年；Sawyerゼミ）* I often travel to foreign countries, and invariably have amazing experiences. I think traveling makes one’s life better in many aspects, so I will ask some question my friends who I met during my travel and reveal why people travel and in what ways it makes their life better. In addition, I will compare their data with my ideas about how travel attracts me and the factors that make my life better. Finally, I hope to make audience more deeply interested in travel.

第1日（11月17日）口頭発表E会場（Ⅱ号館204教室）

11:00	**喜界語の研究** *鴫原歩（総政3年；本田ゼミ）・藤長峻也・山下佳純・山畑勝寛・何力行・右田雅哉・竹綱麻亜子・大藪健斗・足立侑実・淺川颯希* ユネスコによって危機言語に指定されている喜界語の状況を現地調査によって得られたデータを元に分析した。この離島で言語がどのような変質を遂げたか、本土の方言とどこまで隔たっているかを調べるのがこの調査の目的の一つでもある。この調査では主に話者がどのように分布し、どのような意識をもって言語を使っているかをアンケートや聞き取り調査などを実施した。本土方言と喜界語には発音や文法に明確な差異が認められる。本土の人間と喜界語を母語とする人間が会話をした場合意思の疎通は到底できない程に本土方言と喜界語は異なっている。
11:30	**Cultural Differences in Appealing to Consumers: Movies and TV Advertisement** *勝部万里子（総政3年；Sawyerゼミ）・金井千紘* In this presentation, we will compare Japanese TV commercials and film advertisements with those of several different countries. We will answer three research questions. First, we will answer why Japanese movie titles translated from foreign languages are often quite different from the original titles. Second, we will reveal why the styles of TV commercials are quite different across cultures. Third, we will analyze why movie trailers in different counties often focus on different sections of the film.
12:00	**Returnees（Kikokushijo） vs. Monocultural Japanese** *石原彩夏（総政3年；Sawyerゼミ）・後藤田萌・田中久留美* Since the 1970s, many Japanese children have experienced spending several years abroad because of their parents'jobs. We three presenters who have lived in foreign countries, in contrasting cultural enrironments, will explain some differences in cultural identities and behavior between returnees and people who have lived in Japan throughout their lives. We will include an analysis of how age of going abroad, years of foreign residence, and the particular local environment affect the returnee experience and identity. Our goal is to enhance understanding of the variety of returnee experiences and to stimulate deeper thinking about cultural identity.
12:30	**For the True Globalization.** *小西加奈（総政3年；Sawyerゼミ）他* Today, the number of non-Japanese living and working in Japan is increasing rapidly. As of 2015, there were about 2,000,000 non-Japanese in Japan (Ministry of Justice, 2016). However, there are some problems with the circumstances of many non-Japanese workers. One common form of employment is technical internship, which is intended for non-Japanese workers master skills to bring back to their home countries. However, this system is working poorly, because many Japanese employers use this system to exploit non-Japanese interns as cheap labor rather than give them valuable training. My presentation will focus on this problem and suggest some possible solutions.
13:00	**The relationship between bilingual and environment** *上野和哉（総政3年；Sawyerゼミ）* The number of Japanese people who are bilingual is increasing today. Among the various benefits of becoming bilingual, some are obvious and this presentation will reveal some hidden benefits as well. However, the main purpose of this research is to provide a realistic assessment of the possibility for all people being able to become bilingual depending on their efforts, regardless of living environment, wealth, and aptitude. This presentation will put each of these factors into perspective.
13:30	**Japanese and German views of life** *肥塚貴之（総政3年；Sawyerゼミ）他* Through my trip in European countries, I strongly felt that European people live enjoyable lives. I will analyze Japanese and German views of life, especially focusing on two points, working style and leisure style. What are the differences between Japan and Germany in point of labor law? What are problems that Japan have in point of labor system? How do Japanese and Germans perceive their levels of happiness?

15:00	**児童虐待はどのような影響を与えるだろうか？** *井上大輔（総政3年；四方ゼミ）・南川果歩・袋谷佳愛* 近年、児童虐待がよくメディアで取り上げられ問題になっている。児童虐待は年々増えている。私たちが今回研究したテーマは児童虐待の根本的要因は何であるだろうかということである。どのような経歴・状況の人が虐待をしてしまうのか？虐待をしてしまう要因はなんだろうか？ という疑問ついて研究した。先行研究を考察しつつ、データを使い子供の時の家庭環境、15歳の時の親の関わり方は今の本人にどんな影響を与えているかに因果関係があるのかを分析した。また「核家族化」において生じうる虐待は何が原因で起きてしまうのかについても考えた。
15:30	**禁煙ブームの中なお吸い続ける喫煙者たち** *森大昂（総政3年；四方ゼミ）・西中川穣・西村大志郎・李在晃・廣直心* 発表の目的としては喫煙が健康被害を与え、世界的に禁煙活動が活発化しているのにそれでもなお喫煙を続ける喫煙者たちにはどのような特徴や動向がみられるのかを研究する。研究の方法としてはJGSSのデータを使用しHADを使用したロジスティック回帰分析で分析を行う。今を優先する喫煙者は未来を見据えた保険への加入率が低いのではないか、雇用形態の違いによるストレス度合いは喫煙に関係があるのではないか、禁止条例が厳しい都会と禁止条例が緩い田舎の喫煙率の変化があるのではないかという3つの仮説から研究を行う。
16:00	**KSC図書メディア館の在り方～読書空間の再構築～** *木村和樹（総政3年；清水ゼミ）・岩佐優奈・野志美玖* 若者の本離れが社会問題となりつつある今、KSC図書メディア館で学生が本を読む機会が減少している実態が判明した。これは、日本の若者の本離れと同じような現象が起こっており、それらを解決したいと考え研究を行った。研究にあたり、実地調査を中心に進めた。内容としては、他大学とのゾーニング・商業空間の読書空間とを比較し、その後、図書メディア館を評価した。図書メディア館において現在のグループ閲覧室を転用した読書専用スペースの創出を提案し、学生の読書時間の向上及び、読書に適した空間づくりの提案を行う。
16:30	**教育コンテンツの学習行動に基づく教えあい支援システム** *野村湧司（総政4年）* 学級のような同じ内容の学習を目的とするコミュニティでは、学習者同士が教え合いを行うことが効果的な学習方法であるとされている。しかし教え合い学習を促進することは難しく、積極的に行われていないことが現状である。その要因として学習者ごとに理解度の違うことと、コミュニティ内の人間関係が複雑であることが考えられる。そこで、学習者の理解度とオンライン上での学習者の人間関係を抽出して組み合わせて他の学習者を推薦し、きっかけをつくることでコンテンツを通した教え合い学習の促進を提案する。
17:00	**子どもの体力低下は、メディアとどのような関係なのか？** **～子どもの運動能力向上を目的としたメディアの活用～** *大迫有紀（総政3年）・李元碩・大西百合子・小西加奈・森航貴* 我々は、子どもの体力や運動能力低下の問題に着目する。文部科学省は子どもの体力・運動能力が昭和60年ごろから現在まで15年以上にわたり低下傾向が続いていると述べている。一方、子どもの体格は運動能力にかかわらず、伸びている。そのため、子どもの体力や運動能力低下は益々深刻化している。この問題は、子どもが外で遊ばなくなったことが大きな原因と考えられる。では、なぜ子どもは外で遊ばなくなったのか。我々はこの問題に対し、原因と思われる電子機器やメディアコンテンツの影響力を検証し、子どもの運動能力向上を目的としたメディアの活用を提言したい。
17:30	**日本と台湾の大学生活の充実度とキャリアビジョンに関する研究** *服部千波（総政3年）・藤原翼・西川享良* 台湾の多くの大学生は学生の間にワーキングホリデーやインターンシップなどで経験を積んでからその企業に就職するということを聞き、台湾の学生と日本の学生の職業経験の差を比較します。そのことから両国の学生のキャリアビジョンに差があるのではないかと考え、職業経験の他にも様々な事柄を挙げて充実度に関するアンケート調査行います。調査対象は台湾の致理科技大学の学生と関西学院大学三田キャンパスの学生です。最終的には分析結果から大学生のキャリアに関する新たな提案をしたいと考えています。

ポスター発表（ディスカッション・タイムは11月17日［金］14:00～15:00）

P1	**朝鮮戦争における毛沢東の参戦動機** *于麗雅（総政M2）* 朝鮮戦争は、朝鮮半島史、東アジア関係史、及び冷戦史の中にも重要な位置付けがなされている。更には、中朝関係の変遷にも大きな影響を与えている。その中、中国の参戦動機については、今日に至るまで、一貫して研究されている。アーカイブ資料の公開により、中国の朝鮮戦争への参戦過程は次第に明らかになってきたが、当時の中国指導者である毛沢東の参戦動機については、不明なところがまだ残っており、より深く研究する必要がある。本発表は、まず、朝鮮戦争における先行研究に描かれた毛沢東の参戦動機を整理してから、現時点で研究した結論をまとめていく。
P2	**オバマ政権の対中政策に対する中国の反応～アジア太平洋回帰政策を中心に～** *曹チン茜（総政M2）* アメリカと中国の関係は地域、ないし世界の安全保障に大きな影響をもたらしており、世界中の関心を集めている。お互いに対する理解不足のせいで起こる誤解は、そのリスクをさらに大きくするため、両国とも常に相手の動向に高い関心を持っている。アメリカは元大統領や高級官僚が本等も執筆しているので、アメリカの考え方はわりと知られている。それに対して、中国はかなり不透明である。このように中国の意思決定の過程などは謎だらけと思われていたが、中国の研究者の研究を整理したり、党の「喉舌」と言われる「人民日報」や CCTVなどのメデイアの報道、さらに外交部からの公式場での発言等をとともに、中国政府がとった行動をあわせて見ることで、中国側がどうアメリカをどう認識したのかを明らかにしたい。とくにオバマ政権が終わった段階で、オバマ政権期の対中政策と言われる「アジア太平洋回帰」政策に対して、中国側は実はどう認識したのかを分析する。
P3	**日本の首相のリーダーシップの変化** *平泉夏（総政3年）* 本稿は、なぜ同じ議院内閣制を採用する国であっても、リーダーである首相の権限に違いが見られるのかを検証することを目的とする。日本においては、1990年代以前、小泉純一郎より前の各政権では、官僚主導型のボトムアップの意思決定が主流であった。それが2000年代以降、イギリスのウェストミンスター型のトップダウンの意思決定に移行しつつあるとの見方がある。この背景には、中選挙区制から小選挙区比例代表並列制への選挙制度改革、省庁再編による内閣府の創設などの制度変化の栄光が大きかったことが指摘されている。本稿においては、高安（2009）や待鳥（2012）といった先行研究の意見を参考にしながら、日本とイギリスの首相の違いを比較することを通じて、日本の首相のリーダーシップの変化について検証する。
P4	**経済政策の背景** *吉田将大（総政3年；大村ゼミ）* 本研究の目的は、国の指導者とその国の経済状況の関係について分析することである。特に日本国内において、直近10年間における政権による経済政策は大きく異なっており、それぞれの政権によって国内総生産はもとより、各業種によっても業績の差が生まれている。この政策における意思決定や政策の反映はどのように生まれているのだろうか。各政権ごとの時代背景や、政権の支援団体、また各政権下での経済成長データを用いて検証する。
P5	**大月真珠の新市場開拓戦略～真珠×〇〇 from KOBE。** *太田葉月（総政3年；安ゼミ）・川端朋佳・山本晴日・李亜美・中尾勇太・吉田真帆・佐藤仁美・藤井一登・作埜絵美・山本莉久・小川崇・藤井遥・森田友佳子・井上沙耶* 私たち安ゼミは、42年間にわたり真珠の輸出額で業界トップを保持し続け、真珠業界のリーディングカンパニーである株式会社大月真珠様の更なる発展のために、大月真珠様が持つ技術や価値、特徴を研究した上で、今後発展が望める中国市場での新規顧客の獲得に向けた新しいビジネス戦略を考える。また、9月に実施した中国での現地調査の結果を踏まえ、現地のニーズや需要などに配慮しつつ、どのようにして日本で生産されたアコヤ真珠を中国に輸出するのかについて提案する。
P6	**就職活動における満足感～就職先は満足？～** *平岩奈津子（総政3年；李ゼミ）・永田健人・山岡友* 本研究の目的は大学生の就職活動における満足感に影響する要因を探索することである。某県私立大学に通う就職活動を終了した4回生を機縁法により選定し、彼らに就職活動における満足感に関する質問群をインタビューを通じて調査を行い、録音データ、回答データに内容分析、統計解析を施し、就活活動における満足感の要因を検討する。
P7	**内定ブルーとは？～本当にその就職先でいいんですか～** *原一大（総政3年；李ゼミ）・宇良優香・五島悠・森陵斗* 本研究の目的は、大学生の「内定ブルー」に影響する要因を探索することである。某県私立大学に通う就職活動を終了した4回生に機縁法により選定し、彼らに「内定ブルー」に関する質問群を用意し、インタビューを通じて調査を行い、録音データ、回答データに内容分析、統計解析を施し、「内定ブルー」となる要因を検討する。
P8	**北京市における公共住宅政策に関する調査研究～回龍観地区の居住環境・機能・満足度調査～** *斉派（総政M2）* 中国の都市部において、住宅取引価格の急騰によって、社会問題となっている所得格差の拡大ということが、高所得者の資産が増える一方、中所得者の生活に困窮にし、低所得者の住宅困難が深刻化してしまった。政府の対策として、公共住宅制度を研究するために、中国の首都である北京市の事例を取り上げアンケート調査とフェアリング調査を通じて、現状の問題点を明らかにする。今回、アンケート調査の結果を整理し、明らかにした問題点を取り上げ、現状政策の実施成果を分析する。
P9	**国民による税負担率は投票率にどのような影響を与えるのか** *山川朋世（総政3年；大村ゼミ）* 本研究では、国民による税負担率が、各国の投票率にどのような影響を与えているかを明らかにすることを目的とする。日本の国政選挙における投票率は低下傾向にある一方で、北欧諸国をはじめ先進民主主義国の一部の国では投票率は高い水準を維持している。北欧諸国の投票率が高いのは、義務投票制度や高度な市民教育が原因であるとされてきたが、本研究においては、これらの影響を制御した場合にも、国民による税負担率が政治参加に影響を与えているかを検証することを目指す。

P10	**少子化対策～関学生の結婚観をヒントに～** *藤本実沙（総政3年；安高ゼミ）・永井朋美・西尾瑠美・福嶌雄地* 我が国では高齢化と並んで「少子化」が大きな問題となっている。状況が深刻化するに伴い、国内消費の伸び悩みや高齢化社会での社会保障の財源問題など、経済社会全体に大きな影響を与えるのは間違いないと思われる。本研究では、少子化につながる直接的要因を「未婚化・晩婚化」であるとし、近い将来結婚すると考えられる大学生、特に関西学院大学三田キャンパスの総合政策学部と理工学部の1～4回生を対象に結婚観についてアンケート調査を実施した。この結果を踏まえ少子化の実態を解明し、今後の少子化への対応について考察を加えるものである。
P11	**中山間地域とICT** *白石誉拓（総政4年；伊佐田ゼミ）* 日本の少子高齢化が進んでいる。2053年には人口1億人を割り、2060年には人口の約40%が高齢者になると予想されている。中でも中山間地域では地理的条件の悪さから、過疎化や高齢化が都市部に先駆けて進んでいる。増田レポートによると中山間地域の人口の1%が毎年回帰すれば中山間地域での暮らしを維持できると言われている。全国各地の中山間地域ではICTを活用することで地域の観光資源の発信や、UターンやIターンの促進のためのプランの発信などを行い地域活性化を図っている。身近な地域における取り組みの現状を調査し、ICTを活用した地域活性化への今後の取り組みの可能性について研究する。
P12	**雪山活性について** *三原大樹（総政4年；伊佐田ゼミ）* 本研究は近年減少傾向にあるウィンタースポーツ人口の減少に歯止めをかけ、将来的にウィンタースポーツ人口を増加させウィンタースポーツの発展を促すための取り組みを提案しようと行ったものです。研究内容としてウィンタースポーツの現状、現在行われているサービスの考察、アンケート結果を基に今後のサービスの提案をするものです。
P13	**生活拠点機能の再編による郊外住宅地再生の可能性** **～三木市緑が丘・志染町青山地区を対象に②アンケート調査による住民の行動実態～** *青木嵩（総政M2）* 高度経済成長期に形成された郊外住宅地は、分譲開発が主流であり、同時期に均質の世帯が移り住んでいった。その為、開発から半世紀近くが経過した現在、地域の高齢化が顕著に現れている。またそれら居住地と商業等の地域施設の用地が明確に区分された為、開発期以降に現れたロードサイド店舗などの影響で地域施設の減少と偏在化が進む。結果、現在の居住者の生活と地域施設に乖離があると考えられ、今後の持続可能性を補うためにも生活拠点機能を再編するべきであろう。本稿では、同研究の一環であるアンケート調査より居住者の生活実態の分析を行う。
P14	**位置情報付き写真を用いた観光客の動態から見る観光政策について～兵庫県朝来市竹田地域を対象に～** *高見将大（総政M2）* 兵庫県朝来市の竹田は雲海に浮かぶ竹田城跡が近年注目され、急速に観光客数が増加した地域である。しかし一方で、竹田城跡に訪れた観光客は街に滞在せず、経済効果が少ないという問題がある。そのような背景から、街の観光地としての要素を明らかにする必要がある。そこでSNSの写真を利用することで、竹田の街で撮られた写真から観光客が足を運んでいる場所やその日時、見ている内容を明らかにし、 観光地としての要素を明らかにする。またこの地域を訪れた観光客の他地域への観光についても同様の方法で写真の抽出を行い、観光客の性別や年代などの属性から足を運びたくなる要因を探る。
P15	**三田市の耕作放棄地の有効活用～農業の活性化を目指して～** *上村麻美（総政3年；斎藤ゼミ）・橋野菜摘・前田樹* 近年、人口減少や少子高齢化が進み、農業は全国的に衰退傾向にあるが、一部には養父市のように中山間農業改革特区に指定され農業の活性化に成功している地域もある。中山間農業改革特区とは農地流動化や第6次産業化の推進を目的に、農地集約のための売買の許可事務や農業生産法人の要件に関する法律を緩和している地域である。今回、特区認定の効果の一つとして挙げられる耕作放棄地の減少に焦点を当て、三田市を農業特区に指定した場合の耕作放棄地の有効活用を考えるとともに、それによって三田市の農業分野における経済効果にどのような変化が起きるのか検討する。
P16	**篠山市の観光客数を増やすには～歴史的町並みを活かして～** *長谷川翔大（総政3年；斎藤ゼミ）・加地満貴・山本遥・田中友* 兵庫県中東部に位置する篠山市。歴史的町並みも多く存在している。しかし、観光客は長年停滞傾向にある。そこで、私たちは、年々観光客の停滞が伺える兵庫県篠山市を、観光客をより呼び込めるような観光都市を目指せるように提案したいと考えた。そこで、歴史的町並みを有効利用し、人口など都市規模がほとんど同様であるのにもかかわらず、篠山市より多くの観光客数を誇る高山市と豊岡市と比較する。高山市と豊岡市は、篠山市と同じく重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。そこで、篠山市が抱える観光客の停滞を改善する策を講じる。
P17	**住民の地域環境意識を促すサウンドスケープ・デザイン提案～兵庫県丹波市柏原町を対象に～** *村田真梧（総政M2）* 本研究では、都市環境を考える際に視覚的アプローチだけでなく、他の感覚の重要性を説きたく、新たなる視点であるサウンドスケープの概念を用いて、自分たちのまちをより深く知ること、聴覚起点で物事を考える機会を付与することを目的とする。対象地域である兵庫県丹波市柏原町の在住者数十名に音聴き体験を催し、被験者としてアンケートへの回答、また特定の音を聴いてもらいSD法により評価する。その結果を受けて、耳障りな音をへらす、心地よい音をふやす、文化音をのこす提案をすること、住民の地域環境意識の向上を目指す。
P18	**高齢者住宅の充実によって地域問題は解決されるのか～三田市の衰退を大きな発展へ～** *伊藤佑一郎（総政3年；山根ゼミ）* 三田の地域問題に着目し、近年の少子高齢化問題、また空き家問題について解決策を提示する。三田市では、1985年から2015年まで高齢者と呼ばれる65歳以上の人口が4,867人から23,952人（国勢調査より）に約5倍増加している。また、2015年の三田市の高齢化率は21.3%となり、「超高齢社会」と呼ばれる状況となっている。このような現状の解決アプローチとして、バリアフリーや福祉を重視した高齢者住宅を建設することで増え続ける高齢者を受け入れ、高齢者も住みやすい地域として発展を目指し、同時に、高齢者が移住した後の住宅を組織として管理し、リノベーションやリフォームを行うことで、若い世代が安く家を手に入れることを可能にし、“世代間のサイクル”を作り上げるという方法が考えられる。

P19	**観光客はどのような観光行動をとっているのか？　～伊勢に訪れる観光客に注目して～** *菅翼（総政3年；安高ゼミ）・大田智也・佐々木一真・春野達哉* 「みえ食旅パスポート」の前身である「みえ旅パスポート」は、三重県に訪れる観光客数に対する利用者数が少ない。このような現象に対して、どのようにして観光客は情報収集しているのか疑問が生じる。そこで、伊勢を訪れた幅広い年齢層の男女を対象に今回、伊勢に訪れる際にとった観光行動に関するアンケート調査を行った。この調査の結果を踏まえ、伊勢に訪れる観光客がどのような観光行動をとっているのかを明らかにし、「みえ旅パスポート」のような現象が生じないような情報提供手段を提案する。
P20	**超高層S造建物のモニタリングを想定した損傷推定法に関する研究** *孫光宇（総政M2）* 建物の地震による損傷の要因として、特に長時間・長周期地震動の繰り返しがもたらす累積損傷が注目されている。超高層建物に対し、長周期地震動が梁端部等に損傷を与える可能性がある一方、地震発生時、人々を如何に安全地域に誘導するかを考えなければならないので、建築物の被害状況確認が非常に重要なことである。現在、構造ヘルスモニタリングシステムでは、建物の損傷を推定することができるが、繰り返し変形による部材の疲労寿命問題は、まだ考慮されていない。モニタリングセンサーで集計した時刻歴データを適切に処理すれば、部材の損傷度を推定することも可能となると考えられる。地震後の避難誘導と建築物補強の判断に研究の価値を果たしていきたいと思う。
P21	**名所・旧跡に頼らない観光まちづくりについて～兵庫県朝来市竹田地域を対象に～** *坂井章（総政M2）* 兵庫県朝来市は2013年12月にグーグルのCMで竹田城跡が取り上げられて以来、観光客は急増した。2011年度までは年間10万人未満だった観光客が、2014年度には年間58万人に達し、その約半数が個人客である。しかし竹田城跡は訪れても麓のJR竹田駅付近の竹田地域へ足を運ぶ観光客は全体の20%程度と少ない。これはもともと観光地では無かった竹田地域が急に観光地化され、他の魅力が知られていないためだと考えられる。竹田地域の現状の都市構造・都市景観を分析し、竹田城跡に頼らない観光まちづくりを目的に地域の魅力発掘を行う。
P22	**よりよいコンパクトシティへ** *松本尚将（総政3年；山根ゼミ）・石野素基* 少子高齢化、人口流出や環境問題などの今の日本の現状を踏まえて様々な都市でコンパクトシティ政策を推進しています。コンパクトシティとは都市の郊外への拡大を抑制し、それと同時に中心地の活性化を行う取り組みです。私たちは先立って行われている青森、富山、金沢などの事例をもとに、政策のメリット、デメリット、成功や失敗した理由を考え、この政策を推進した前後で人口や経済がどのように変化したかなどを既存のデータやオリジナルの指標などでまとめ、よりよい政策にするにはどうするべきかを地域性を絡めて考察します。
P23	**空地からはじまる〇〇～西脇の未来予想図～** *嶋村美咲（総政3年；客野ゼミ）・林佑亮・加藤真愛* 平成26年11月27日に空き家等対策の推進に関する特別措置法が施行され、所有者の意思に関わらず、倒壊の恐れのある空き家の強制撤去が可能になった。そのことから、今後空き地が増加することが予想される。兵庫県の中でも空き家率が高い西脇市を取り上げ、フィールドワークによる空き家と空き地の現状把握やヒアリング調査を行い、統計データを用いた地理情報処理システム（GIS）による分析を実施する。そして、空き地の新しい活用方策の提案を行う。
P24	**播州織noベーション** *森川尭（総政3年；客野ゼミ）・坂田祐梨・平田彩夏・大林碧* 西脇市にある古民家のリノベーションを通して、西脇市の伝統工芸である播州織の衰退と少子高齢化による人口減少の二つの課題を解決する。手段として、若いクリエーターが求めているコミュニティや空間を基に、シェアハウス・飲食店・工房をひとつのユニットにする。そして、それらを必要に応じて場所ごとにプロットしていく。それにより、若いクリエーターが住みたいと思う町をつくり、次世代に播州織を伝承する。
P25	**若手建築家の方法論と今後の可能性** *竹鼻航平（総政3年）* 本研究では「若手建築家の方法論と今後の可能性」について考察する。近年注目されている若手建築家の作品に焦点を当てることで、これからの建築の方向性について考えることを目的とする。具体的には「大西麻貴と百田有希」の若手建築家ユニットを対象とする。彼らは2008年に設計事務所を開設して以来、様々なコンペで入賞して頭角を現してきた。今回は彼らの建築作品を様々な視点から分析し、他の建築作品との比較などを通し「大西麻貴と百田有希」の設計思想、スタイルの位置づけや今後の可能性について論じる。
P26	**古民家の再生～尾道市の例を参考にして～** *安東初乃佳（総政3年；山根ゼミ）・有吉睦子* 尾道市の古民家群は坂であるという難しい立地であるが、リノベーションされてうまく活用されている。その地域や土地の特性を生かして現在空き家となっている住宅を、再度生まれ変わらせることはできないのだろうか。
P27	**妖怪たちが人間に与えたもの** *尾崎大健（北摂三田高2年）* はるか昔から人間社会の陰に潜み続け、人間に様々な影響を与えてきた「妖怪」。昔の物語や絵画作品などに多数登場しており、現代においても漫画やアニメの題材として多くの人気を得ている。実体を持たない彼らが、なぜ愛され続けるのか。そもそもどのようにして生まれたのか。存在している意義は何なのか。それらを調べ、考察し、そこから人間の心理についてわかることをまとめる。
P28	**日本の美意識～「痩せすぎ」と健康意識～** *鄭雅文（総政4年；伊佐田ゼミ）* 「美」の定義は何だと思う。時代が変わっているとともに、「見た目」が全てになっているイメージを持っていないか。今、ダイエットと整形はいつの間にか人気の話題になっている。「美しさを追求したい欲求」を持って、見た目にかけるお金や労力を惜しまない若者が増えてきた。見た目が大事だとされているこの社会には「美」の基準は何だ。本研究では、日本の求めている「見た目」あるいは「美意識」が昔から今までどのように変わってきたのを明らかにすることを目的として、現在日本の「痩せ問題」などの課題の対策を考察する。

P29	**日本人女性における社会と人工美「タトゥー」についての研究** *黒田圭菜（総政4年；伊佐田ゼミ）* 現代の日本において、街中で刺青やタトゥーを入れている人々を見かけることはそう珍しいことではなくなった。若者のファッションタトゥーの普遍化や外国人観光客の増加がみられる現代、環境の変化と共存している私たちを取り巻く環境や歴史、海外での対応を認識する必要がある。日本人女性がタトゥーに寛容的であるのは歴史的に自然美以上のものが女性に求められてきたからではないかと仮説をたて、タトゥーと美人観「人工美」に深く関わる女性の歴史や社会との関係の構造をみつけ、比較し、解釈したい。
P30	**韓国の美容整形～満足度を向上するために～** *金信愛（総政4年：伊佐田ゼミ）* 近年、韓国の女性は、2人中1人の割合で1回以上美容整形手術を受けた経験者が多く、整形手術が社会の中に浸透している。外見が良くないと進学や就職に不利と考える傾向が強く、親が子供に美容整形を勧めることも珍しくない。一方、増え続ける美容整形手術件数に反して、手術後の後遺症や結果に不満を感じる人も増えている。そこで本研究は、韓国の美容整形が抱えている問題を明らかにし、美容整形手術の満足度を上げるための方策について提案する。
P31	**めざせ！ポイ捨てゼロ社会！** *林秀明（総政3年；宮川ゼミ）・藤崎風香・桐原理紗子・宮川奈穂・米道巧人* 現在日本では、外国人観光客の増加が注目されており、全国各地の観光地では観光客の受け入れ態勢が見直されている。そこで、私たちが着目したのは観光地における美観保全である。これまで各自治体でまちの美観に関する条例などに基づき様々な対策が行われてきたが、観光地でのゴミの散乱やポイ捨てなどは未だ問題になっている。本研究では、京阪神地域の観光地に焦点をあて、観光地の美観保全に関する対策とその効果を調査したうえで、有効な対策のあり方について考察する。
P32	**塵も積もれば山となる！～カフェへのマイボトル持参による廃棄プラスチックカップの削減～** *坂入美緒（総政3；宮川ゼミ）・中村文香・石川恵・岡部莉奈* 日本のゴミの総排出量は世界でトップレベルである。近年では、プラスチック廃棄物の割合が多くなってきている。プラスチックは環境負荷が大きく、リサイクルにも費用がかかるため、最も根本的な解決策は使用量を減らすことと考えられる。そこで本研究では、カフェへのマイボトル持参に着目する。カフェでマイボトル持参の実態調査を行う。また、日常生活における環境配慮やカフェの利用に関してアンケート調査を行い、マイボトル持参に対する人々の考えを明らかにするとともに、カフェへのマイボトル持参の促進策について考察する。
P33	**佐山ゼミ　阿蘇実習　報告** *小椋拓眞（総政4年；佐山ゼミ）・渡邊永（総政3年）・上田奉正・吉崎藍・長谷波凇* 佐山ゼミ名物のフィールドワークの一つである阿蘇実習の報告を行う。阿蘇の草原再生ボランティアがなぜ必要か、なぜ阿蘇の草原を再生しなければならないのか。これらの疑問点についてポスターで発表し、阿蘇実習の必要性を説明していきます。
P34	**過剰包装から排出されるゴミを減らすために　～ネット通販における過剰包装の観点から～** *工藤大夢　（総政3年；今井ゼミ）・涌田正行・木下弘一・呂家良* 近年、楽天やアマゾンといったネット通販での買い物が増加傾向にある。同時に、日本における包装は世界的に見ても過剰であり、ゴミの増加につながっている。また、ダンボール類はリサイクルに回すことができるが、リサイクルにも限界があり、いずれはゴミとなってしまう。そこで私たちは、ネット通販で買い物をする際に、包装の質を個人が選択できれば良いのではないかと考えた。具体的には、商品の包装レベルを設定し、レベルに応じて料金が異なるシステムを提案し、過剰包装によるゴミの排出量を減らしていきたいと考える。
P35	**日本でペット殺処分を減らすために～ペットショップに規制をかけると上手くいく？！～** *又吉映見（総政3年；今井ゼミ）・磯谷亮太・木村愛香・田中彩加* 近年のペットブームにより、ペット市場は世界的に増加傾向にある。日本でもペット市場が増加しているが、一方では保健所などでペット殺処分が日本の多くの県で日常的に行われている。その原因のひとつとして、劣悪な環境で子犬を生産し、必要なくなった母犬・猫を大量に持ち込むブリーダー（通称＝悪徳ブリーダー）の存在がある。ヨーロッパなどの動物愛護が進んでいる国ではペットショップの店頭陳列を禁止するなど強い規制をかけることでペット市場から悪徳ブリーダーを排除しペット殺処分数を減らすことに成功している。これを踏まえ、規制の少ない日本ペットショップにどのような規制をかけるのが望ましいか検討する。
P36	**これからの日本のエコツーリズム～富士山、フライブルク市を事例に～** *小林剛基（総政3年）・青山丈太朗* 近年テレビや雑誌を通じて、世界中でエコツーリズムの魅力が紹介されるようになった。その影響により年々多くの観光客がその魅力に惹かれ、様々な国や土地、自然に足を踏み入れるようになった。しかし、観光客の増加や、利益第一のツアーが増えたことにより、エコツーリズムの本来の目的である自然や文化保護への意識は希薄になり、むしろその土地固有の自然や文化を破壊してしまうといった本末転倒な結果となる場合は決して少なくない。このような観光体制を続けることは環境を破壊し、持続することができない。そのため富士山とフライブルクを事例として、今後の日本におけるエコツーリズムをどのように推進させ、持続可能な観光をどのように目指すべきかを提言したい。
P37	**動物に関する意識調査** *信木斐登（総政3年）・堀川陽平・西川幸輝・塚尾朋也* 私たちは人間と動物との共生について取り上げる。日本だけでなく世界レベルで、捕鯨問題や動物実験、自然破壊による動物の多様性の減少といった人が関わる動物の問題が物議を呼んでいる。人と動物が関わる問題は、様々な小さな問題が複雑に絡み合い、簡単には解決できない問題となっている。これは、国民一人ひとりが関係しているからである。そこでアンケート調査を行い動物が関連している問題への認知度や考えを明らかにする。この調査の結果を踏まえて人間と動物の共生について考え、動物が関わる問題の解決への糸口を見つけていく。

P38	**BGMが及ぼす心理的影響について～映画音楽を例に見る～** *水野淳優（総政3年；Tijerinoゼミ）* BGMは様々な場所で人々に影響を与えている。特に映画などの映像作品とBGMは密接に関わっており、映画音楽の成功は映画の成功を示す事が多い。例えばタイタニックの主題歌“My Heart Will Go On” がある。しかし、時には映像作品の評価がBGMに過度に依存する場合もあるだろう。例えば、映画を見て感涙する一方、内容や映像を明確に覚えていない場合がある。これはBGMに過度に依存していることにより、作品を多角的な視点から受容できていないケースである。このような仮説について比較調査する事でBGMがもたらす心理的影響を紐解き、作品鑑賞のあり方について研究する。
P39	**ゲームの進化からみる依存症とその対策** *段強（総政3年；Tijerinoゼミ）・立岩竜平* 現在、私たちはゲーム機やパソコン、スマートフォンを用いていつでもどこでもゲームを楽しむことができる。また、インターネットが広く普及するようになったことにより、日本国内だけでなく世界中の人達と一緒にプレイすることが可能となった。しかし、そのゲームに熱中するあまり依存症に陥ってしまう人がいるということをご存知であろうか。今やゲームをするために必要なデバイスは容易に手に入るようになり、私たちに広く浸透している。こうした現状の中で依存症は無視することのできない社会問題となりつつある。そこで、ここではゲームとますますかかわる通信技術の進化が依存症の原因であると仮定し、対策を提案する。
P40	**無料音楽配信ビジネスの可能性** *森槙子（総政4年；伊佐田ゼミ）* 近年、定額制音楽配信サービスの利用者が増加し続けている。実際、2015年末約560万人だった利用者が2016年末は1420万人と約2.5倍増加している。しかし、全体の割合でみると未だ約20%と低く、拡大の余地があるのが現状だ。本研究は非利用者が利用しない理由として考えられる、音楽を聴く習慣がないという点に着目し、無料音楽配信を取り入れることで音楽を聴く習慣のある人が増え、音楽業界が活性化するのではないかという仮説の下、満足度の高いサービスに必要な条件を調査し、その実現のために必要なものを挙げ、ビジネスモデルを提示する。
P41	**Scratchで作る2対2のサッカーゲーム** *天野健司（総政4年；伊佐田ゼミ）* 本研究は、ビジュアルプログラミング言語「Scratch」を用いて擬似サッカーゲームを作り、それを体験してもらうことでサッカーに対する興味や知識を深めてほしいと行ったものである。近年、論理的思考が養われるという理由で習い事にプログラミングが注目されている。そこで子供向けプログラミング教材やツールとして広く使われているビジュアルプログラミング言語「Scratch」を使い、2対2のサッカーゲームを作った。発表では制作の過程や工夫した点、実際に体験した人の感想に対する考察を行う。
P42	**Web検索のための動画字幕データを用いた検索キーワード自動生成方式** *柿本穂香（総政3年；角谷ゼミ）* 現在、動画配信サイトやテレビ番組などが多く普及している。視聴中に馴染みのない情報やより深く知りたい情報が得られた際、視聴者は自らWeb検索を行う必要がある。しかし、検索にはスマートフォンもしくはパソコンなどのセカンドデバイスを操作する必要があり、手間と時間がかかる。本研究では先行研究を参考に、映像のキャプション（字幕）から検索クエリ（検索用ワード）の適切な組み合わせを生成し、関連Webページを自動で検索することで、視聴者の映像への理解度を向上させるとともに、興味関心に合ったスムーズなWebページ閲覧を支援する。
P43	**モデル化した不満情報による語義の多義性と多様性の分析** *澤田悠治（総政3年；角谷ゼミ）* 現在、ECサイトを利用することによって、ユーザが購入したい商品を実際に見なくても購入することが出来るようになったため、商品に対する不満が生じやすくなった。本発表では不満全般を投稿できるWebサービスの一つである不満買取センターの商品に対する実データを用いて不満内容のモデル化を行い、商品に対する不満原因の曖昧さを軽減するために、不満に関連する単語の多義性と多様性を分析する。
P44	**料理動画のハイライト部分の抽出** *柏木宏友（総政3年；角谷ゼミ）* 近年、レシピ動画の関連のベンチャーが次々と立ち上がり、1分前後で料理の過程をまとめた動画が、Facebook、Twitterなどで拡散され、成長してきた。普段使っているSNS上で動画を見られること、電車内やスキマ時間に気軽に見られることなどが、女性を中心に世代を問わず受けている。しかし、時短料理動画を作るのには多くのコストがかかっており従来のTV番組や動画サイトでの動画が活用されてない現状である。そこで、従来の料理動画を用いてハイライト部分の抽出を行い1分料理動画の自動作成を研究の目的とした。
P45	**三次元空間モデルに基づく、オンライン店舗の提案** *小林伸司（総政3年）* 近年、オンラインショッピングの利用者が非常に増えている。その際に、商品を手に取ることができないことというのが難点の一つとして存在する。他にも、サイトによって仕様が違うため操作が難しいというケースもある。それらの問題点を踏まえて解決案として考案したのが三次元空間モデルである。三次元空間モデルを用いることによって、ユーザーの商品への理解度が高まると考えられる。本研究では、それらの問題点を改善すべく新しい手法として三次元空間モデルを使用したオンライン店舗でのショッピングを提案する。
P46	**LiVECMの特性分析** *服部龍太郎（総政3年）* 現在、テレビCMはスポンサーから視聴者に対する一方的な宣伝に過ぎず、テレビ視聴者はテレビCMに関心を持っていないどころか、不快に思うのが現状である。しかし、2016年にHAROID社によって提案されたLiVECMというスポンサーと視聴者間で双方向的なテレビCMが放映された。視聴者は、今までにないテレビCMに大きな興味を抱いてLiVECMに参加した。その結果、対象商品の大量サンプリングを実現し、大きな経済効果を生んだ。そこで、次世代的なLiVECMにはなぜ視聴者が興味を抱いたのか。従来のテレビCMとの違いを調査し、今後必要とされるCMのあり方を考察する。

P47	**電子書籍普及に伴う、紙媒体書籍の今後の役割についての考察** *中島卓哉（総政４年；伊佐田ゼミ）* 近年、スマートフォンや電子タブレットの普及に伴い、雑誌や書籍をインターネットや無料アプリで配信するサービスが増えている。2016年度の電子書籍（電子雑誌を除く）の市場規模では約2000億円程度であり、2020年度には3000億円程度になるのではないかと予想されている。一方で紙媒体の市場規模は、減少してきており売り上げとして芳しいものではない。本研究ではこれから近い将来に、電子書籍が紙媒体の書籍にとって代わっていくと仮定し、その発展の中で、紙媒体の書籍がどのような役割にシフトしていくのかといった展望を述べるものである。
P48	**コスメアイテムにおけるレビュー情報と使用感の差異に基づく分析** *友森美有（総政３年）* 昨今、様々なECサイトの出現によりレビューを参考に購買活動を行うユーザが増加している。特に化粧水などの基礎化粧品は、その効果を確認するための尺度としてレビュー情報が重要視されている。しかし、その効果の感じ方は個人によって異なり、膨大なレビューの中から自分と同じ価値観を持つユーザのレビューの発見は困難である。このように、レビューと実際の使用感に差があることは問題である。本研究は、その差異を発見するために、肌質の感じ方に関するレビュー中の特徴語抽出と、ユーザへの調査から分析を行う。
P49	**消費者の購買意欲を促進させる美容系動画の分析** *瀧山あおい（総政３年）* 今日、多種多様なコスメ商品が存在し、消費者はそれらの膨大な選択肢の中から自分に合ったコスメ商品を選びとっている。しかし、消費者が期待している効能とコスメ商品を実際に使用した時のギャップは常に存在する。それらのギャップを少なくする方法として、コスメのレビューサイトを閲覧すること、動画サイトで美容系動画を視聴する等が挙げられる。今回は美容系動画に着目しどのような動画がより消費者の購買意欲を促進するのかを分析して行きたい。
P50	**映画の宣伝におけるキャッチコピーの分析** *戸田雅晴（総政３年；角谷ゼミ）* 「全米が泣いた」、このような映画のキャッチコピーを皆さんは見たことや聞いたことがあるだろうか。キャッチコピーとは一文で映画の特徴を理解させる、または興味を持たせるという意味で非常に重要である。本研究では、視聴者のレビューをキャッチコピーに反映させることで、その映画の本当の魅力が分かると考え、映画レビューとあらすじからデータを抽出し、キャッチコピーを自動生成するということを目的としており、今回のリサーチフェアではそのために行う過去の映画のキャッチコピーの分析の結果を発表する。
P51	**ドライバー特性に適した道路推薦のためのリアルタイム走行データ分析** *髙木明央（総政３年）* 今日、「車でDS」を筆頭に、車とスマホやゲーム機などの電子機器を通信することで位置情報や車内情報を共有するサービスが存在する。CANという車載ネットワークシステムを利用して、車両に関するデータのリアルタイムな記録が取得可能である。このCANから得られるリアルタイム走行データから取得可能な情報から、カーナビだけでは判別できない道路情報を推測し、スマホなどの端末にドライバーの運転技術や状況などに適した道を新たに提案するという情報推薦システムを提案する。
P52	**フジテレビドラマ視聴率低迷の原因とは。** *阿部修也（総政４年；伊佐田ゼミ）* かつてテレビの顔と呼ばれた、フジテレビの月曜日９時ドラマ、通称「月９」。しかし、「月９」の視聴率は年を追うごとに低下している。それどころか、他のフジテレビの夜ドラマも軒並み視聴率が低下している。一方、今まで不調だった、TBSの火曜ドラマが「逃げるは恥だが役に立つ」でヒットし、２０１７年も順調に視聴率を伸ばしている。今、ネットの影響で若者のテレビ離れが騒がれているが、本当に若者のテレビ離れだけが、視聴率低下の原因なのか。視聴率、ジャンルなど様々な角度からフジテレビドラマの現状を探り、原因を推測する。
P53	**運動神経と水泳の関係** *白田章真（北摂三田高２年）* 私は「運動神経と水泳の関係」について研究した。普段の会話の中で、「あの人、運動神経いいな」と思う人がいることはよくあると思う。しかし、運動神経が良いと言われている人でも、なにか特定のスポーツが苦手な人がほとんどだと思う。こういった点から、どういう基準で「運動神経が良い」とみなすことができるのか、そもそも運動神経を良くすることができるのか、気になった。そして調べていくと、「水泳が運動神経を良くするのに向いている」と言われていることがわかった。果たしてこのことが本当なのか、先ほど疑問に思ったことと共に解明していく。
P54	**2008年以降の国政選挙における選挙予測** *木南智章（総政３年）* 本研究の目的は衆議院と参議院における選挙予測において、いかに精度の高い予測が可能となるかを検討することである。アメリカにおける大統領選挙やイギリスのEUからの離脱をめぐる国民投票において、選挙予測がしばしば失敗していることは記憶に新しい。日本の選挙予測は、他国に比べると精度が高いようにも思われるが、今後の国民投票などにおいて選挙予測が適合しない事例も出てくることが想定される。本研究においては、個人の投票選択に関するモデルを基にしてシミュレーションを行い選挙予測について検証することを目指す。
P55	**見捨てない、５万６千。 ～殺処分数減少に向けた保護犬・保護猫カフェの現状と課題～** *石川 美里（総政３年；宮川ゼミ）・首藤 百合香・吉井 梨桂・横内 ゆうか* 環境省が発表した「犬・猫の引取り及び負傷動物の収容状況」によると、平成28年度に約56,000頭の犬・猫が殺処分されている。その数は、近年、減少傾向にはあるが、1日に平均して約150頭もの殺処分が行われている現状は見過ごすことができない。殺処分数減少に貢献しうる存在として、保護犬・保護猫カフェがある。本研究では、保護犬・保護猫カフェの認知度、実態、今後の課題を、現地調査、資料収集などから、検証していく。それらの結果をもとに、犬・猫の殺処分数減少に向けた今後の対策のあり方を考察する。

自由形式　第1日（11月17日）

自由形式会場1	Ⅱ－105 10:00 ～ 13:30	**「熊本のいま」を伝えたい～熊本地震現地ボランティア活動報告～** *菅翼（総政3年）・南田直人（理工1年）・壷坂昌代・山内里奈* みなさんは、地震発生後の熊本のようすをご存知でしょうか？熊本地震が発生した2016年4月から、約1年半が経過しました。新聞やテレビなどメディアで熊本地震に関する報道がほとんどなされなくなったいま、みなさんが「熊本のいま」を目にする機会が非常に少なくなっています。関西学院大学では地震発生後からこれまで計6回にわたり学生有志で熊本を訪れ、ボランティア活動を行ってきました。今回は参加者が現地で見たり、現地の方からお聞きしたりしたことを写真や参加者の体験談を通して、みなさんに「熊本のいま」をお伝えします。
自由形式会場2	Ⅱ－107 10:30 ～ 11:00	**外国人への日本語学習支援　～オンラインとゲームを利用した学習～** *藤川茜（総政4年；Tijerinoゼミ）・尾崎莉子* 海外から移住してきた子供達やその親にとって日本語の習得は非常に重要な課題である。子供たちの中には漢字が読めないなどの問題を抱えている子供が散見される。そこで今日急速に普及が進んでいるPCやタブレット、スマホといったICT機器を利用したオンラインの日本語学習教材を開発、提供するサイトを開発した。ネットワーク環境を利用することにより統一して進度管理ができる点で生徒、教員双方にとって有用であると考えられる。ランキングや表彰のシステムを併用することでモチベーション維持に効果があると考える。この研究について発表する。
	11:00 ～ 11:30	**アニメーション制作から考える2Dと3DCGの比較** *片ノ坂真由（総政4年；Tijerinoゼミ）・樋上杏沙花・吉冨萌々* 近年、アニメーションの制作にあたり、世界では3DCGを利用した作品が増加の一途を辿っている。3DCGとは、行程のほとんどをコンピュータのソフトウェアを通したデジタルデータにより作成される。一方国内では2Dを利用した作品が未だ根強い人気を誇る。本研究では、2Dアニメーションと3DCGを用いたアニメーションの比較を行い、それぞれが人々に与える影響を明らかにしていきたい。実際に短編アニメーションを作成し、アンケート結果を用いながら3DCG、そして2Dの将来性を示していく。
	11:30 ～ 12:00	**Virtual Mirrorの時代は来るのか？** *福岡翼（総政4年）・岩崎大貴* Virtual Mirrorと聞いて、あなたはなにを思い浮べるだろうか？現在、若者の間で流行しているSNOW もその一つであり、社会における必要性は高まってきている。このように、現実の中に仮想的価値を取り入れることができるこのVirtual Mirrorが今日どのように使用されているか、具体例を挙げていく。さらに、使用することに対するメリット・デメリットを把握し、今後新しい分野におけるVirtual Mirrorの可能性について提示していきたい。
	12:00 ～ 13:00	**VRを用いた教育ツールの開発とVRの可能性** *ハンター山下海（総政3年；Tijerinoゼミ）・江本大介・金昌民* 私たちの生活においてコンピュータの重要性はさらに増しており多くの知識が求められている。また現在、コンピュータの教育を小学校から始めていて効率の良い授業が求められる。そこで実体験ができるVRを使用し新たな教育ツールを開発した。VRは授業効率が高いツールとして研究されており今後さらに主要な教育ツールになるのではないかと考える。コンピュータの構造を知ってもらうため、VR空間で視覚的にコンピュータを組み立てることで構造をより理解しやすくなるツールを開発した。VRの教育面での活用の可能性と開発した教育ツールを発表する。
	13:00 ～ 13:45	**変革をもたらすVR～体感できる新しい価値～** *嶋睦弥（総政3年；Tijerinoゼミ）・松添世菜・小河真樹・柴田直* 近年 VR（バーチャルリアリティ）が注目され始め、話題となっている。その中でゲームや社内研修、教育、医療など 様々な利用方法が開拓されている。VR の現状を伝えることで VR を身近に感じてもらい、オーディエンスに可能性を 考えさせる。さらに、このように多くの可能性を秘めている VR を知ることで、今後の発展方法を模索することを目指す。 最後に、実際に Tilt Brush（VR で空間の中に立体創作できるツール）と、3D Organon（人体模型を VR で見ること ができるツール）を体験してもらう。
	14:00 ～ 15:00	**vrを通じての言語教育～recroomの将来性と実用性～** *韓遠会（総政3年）・奈須野李樹・福永由紀子* 現在メディア社会において一目置かれているデバイスとしてVRが挙げられる。現在、VRの使用状況として世間的にはエンターテイメント性のあるゲームを主体とした普及がされているが、教育にも使い道があるのではないかと考え、VRを活用して言語を学ぶという言語教育をテーマとした。今回、実際の人とリアルタイムで対話を通して、会話やスポーツを楽しむことを可能にするHTC ViveのVRシステムを利用して、英語や中国語など言語ごとにコミュニケーションを取るための環境を製作することで、遠隔的に異文化交流を気軽に体験することができると考え、研究を行った。
	15:00 ～ 15:35	**拡張現実を取り入れた学内生活快適システムの提案** *竹内一将（総政4年；Tijerinoゼミ）・西地 智也 ・林駿豪* 私たちは、日々様々な講義を様々な時間帯に受講しています。そして、必ず多くの講義管理アプリケーションや、教室情報を確認して授業の教室に入ります。そしてそれらの情報は自分で確認しなければならず、教室間違いなどを引き起こします。それに対して今回の発表では、いままで利用された講義管理アプリケーションやKGportalなどを調査、考察し拡張現実の技術を利用することによって講義情報より明確に確認し、講義を円滑に受けることができるアプリケーションの提案する予定です。

自由形式会場３	Ⅱ－109 12:00 ～ 16:00	**2017年度 白山麓実習の報告と今後の展望** *芳田彩希（総政４年；佐山ゼミ）・辻伽名子・前田和輝・垣内稍圭・角谷有樹音（総政３年）・大石成美・西村千咲* 石川県白山市（白山麓）の地域活性化を目的とした『白山麓実習』は、今年度でスタートから８年目を迎えた。今年度は、昨年度の実習時に開催した座談会で、地域の方々から聞こえてきた声が原点となり、産官民の関係機関（白山市、白山手取川ジオパーク推進協議会、白山吉野地域振興協議会、金沢庭材（株）、市民団体ツナグ白山麓、（株）岸グリーンサービス、石川県立明和特別支援学校、他）と連携し、20年以上止まっていた水車を修理、復活させ、利活用の施策案を発表した。リサーチフェアでは、今年度の取り組みや今後の展望についてお話しする。
自由形式会場４	Ⅱ－112 11:00 ～ 13:00 （30分×２回ずつ、計４回プレゼン）	**ドキュメンタリー映像におけるVRの可能性 ～フィジー共和国でのインタビュー題材を用いて～** *小野悠希（総政４年；山田ゼミ）* VR（バーチャル・リアリティ）市場は、2020年までに年率約180％で急激に成長し様々な分野での活用が期待されている。本研究ではインタビューによるドキュメント動画を題材に、三人称視点のみのVR映像、一人称視点と三人称視点を交えたVR映像の二種類を作成しデモンストレーションすることをめざす。そしてインタビューのようなドキュメント動画のVR視聴を通して、視点の置き方を比較検討し、バーチャルな空間体験がドキュメンタリー映像にもたらす可能性を考えたい。 **バス利用ガイドのアプリケーション開発　～訪日外国人観光客のバス利用を容易にするには～** *角勝亜衣（総政４年）* 東京オリンピックに向け、現在も増加している海外からの旅行客が便利に日本を楽しめるよう、様々なサービスの充実が望まれている。本研究では日本語が不自由な外国人旅行者のバス利用を支援するため、バス乗車案内のアプリケーション開発を行う。具体的には、スマートフォンのカメラでバス停を自動認識すると起動するアプリケーションを作成し、運賃、支払い方法、ベビーカーへの対応等を知ることが出来るガイドシステムを作成する。今回の発表では、実際にスマートフォンによるデモンストレーションをめざす。
自由形式会場５	Ⅱ－205 16:00 ～ 16:30	**ネット動画によるマイナースポーツの知名度向上～陸上ホッケーを用いて～** *国府田アン（総政４年；伊佐田ゼミ）* 近年、メディアを通したスポーツに人気が高まっている。メジャースポーツはもちろん、以前まで競技人口・観戦人口の少なかったスポーツも、メディアを通して人気が高まっていることは事実である。マイナースポーツはメディアに取り上げられる機会が少ないため知名度を向上させることは難しいが、もし向上すれば施設や整備、支援の普及が進むと共に競技人口・観戦人口も増加するのではないかと仮定する。そこで、自身が行っている部活動の陸上ホッケーをテーマに、撮影や編集を行いネット動画であるYouTube上にアップすることで実際に知名度の向上はできるのかを検証する。
自由形式会場６	Ⅱ－208 15:00 ～ 16:00	**「表現」・映像制作・発表～学生が創るドキュメンタリー番組～** *森川瑞希（総政２年；メディア情報演習「表現」）・大畠優芽・塚本和泉・鎌屋俊亮・松本佳依・山田佳奈* 私たちは春学期に行われた「メディア制作演習（表現）」という授業の中で「総合政策学部生の目線で考えた社会に訴えかける番組の制作」をテーマに6つのチームに分かれ、10分間の番組を制作しました。［メディカル･アラート･タトゥー～伝えたい私の病気、救いたいあなたの命］［着物✖キモノ～時代が求める2つの染めの形～］［高額チケットの世界～ハマる学生、明かす本音］［地域デザインはしまを幸せにするのか～豊かな島豊島～］［村シェア～ただいまを納めよう～］［デジタルアートバトルLIMITS～”限界”を超えろ～］
自由形式会場７	Ⅱ－209 10:00 ～ 16:00	**愛 can change the world !～小西ゼミ生×フィリピン～** *稲岡美咲（総政３年；小西ゼミ）・岡田優苗・河本優香・小林孝祐・図師葉月・滝尻和子・馬場ひかり・藤木湧紀* 途上国の教育問題は、我々日本人にとっても目を背けることのできない重要な問題である。今回は、つたえる～Smile, Share and ○○.～をテーマに小西ゼミ生がフィリピンでのフィールドワークで学んだことをムービーの放映や写真展示、ポスター発表などを通じて、来訪者の方に伝え、少しでも多くの人が貧困や途上国の教育について考えるきっかけを作られれば良いと考えている。また、小西ゼミの発展途上国における教育支援活動に関してもつたえ、学生にもできることがあるということを知ってもらう。さらに、来訪者の方がそれらの問題に対して実際にアプローチする方法を考えられるプログラムも実施する。

第2日（11月18日［土］）口頭発表A会場（Ⅱ号館101教室）

9:00	**民主主義のルーツ～私たちの家族と左翼勢力～** *前垣内薫（総政3年；柴山ゼミ）・黒田敦穂・黒田夏穂・木村舞衣・吉村文・山本祥吾* 経済学者トマ・ピケティは、資本主義社会において格差が拡大するとしたが、日本は例外で格差の縮小がみられたとしている。日本では皆平等な社会を当然としている。この社会を作っている日本の民主主義はどのように形成されてきたのだろうか。本発表は、民主主義のルーツを明らかにするため、ファミリーヒストリーと左翼勢力の2つが民主主義形成にどう関係してきたかを考察する。私と家族のつながりや、これまであまり触れられてこなかった戦後の左翼活動について、インタビューすることで日本における民主主義の起源を解き明かしていく。
9:30	**Why are there differences between Japanese and German attitudes towards keeping dolphins in captivity in aquariums? A comparison of environmental awareness in both countries** *足立晴香（千里国際高3年）* My research goal was to acquire an understanding of the different attitudes towards keeping dolphins in Japanese and German aquariums. From interviews and research, I discovered that even though the people's awareness in both countries is high, it doesn't affect the actions of the Japanese. I also looked at how a lack of financial support for aquariums in Japan means they need to rely on the popularity of dolphins to remain in business. A significant part of my research is to find ways in which Japanese aquariums can contribute more to environmental awareness.
10:00	**モロッコのアマジグ人～先住民族アマジグ人の宗教文化・ファッション～** *湯浅拓海（総政3年）* Maghreb, the tribe still live in the traditional life at North Africa. Most of these tribes live in Atlas mountain, Morocco. This summer, I traveled Atlas mountain about 3 weeks and trekked 200km to visit small villages of Maghreb to do field work. In addition, I stayed at one village 1 week and research about their religious festival called Eid ul-Adha. In my presentation, I will talk about my experience in Atlas mountain and their culture of religion and fashion.
10:30	**Raising Poverty Lines for Women and Children: Effectiveness of Social Businesses** *中村沙羅（千里国際高3年）* In a world where international poverty catches the attention of first world countries, fixing the problem of domestic poverty does not seem to be a priority. In order to determine the state of poverty, a poverty line is used. According to the world bank the international poverty line has risen over the past year. On the other hand, the domestic poverty line in Japan and America keeps sinking.Research has found that the majority of those living in poverty in Japan and America are single mothers. In order to raise the domestic poverty line both countries should start by supporting single mothers and their children.
11:00	**The Possibility of academic improvement in colonized countries by English-speaking countries** *片山菜束（総政3年；Sawyerゼミ）* This research focusses on Papua New Guinea (PNG) that is difficult to be affected by other countries because of island country same as Japan. PNG has a language "Tok Pisin" that is quite similar to English because Australia and England had colonized the country. This research will compare PNG, Japan and Netherland that has the first English ability of the world, and show the possibility of academic development of such colonized countries.
11:30	**日本ではなぜ殺した動物を供養するのか：太地町の古式捕鯨を例に挙げて** *富口晴菜（千里国際高3年）* 本研究は、日本人はなぜ死者だけでなく動物にも供養を施すのかを明らかにすることを目的とした。和歌山県太地町で江戸時代に行われていた儀式的な古式捕鯨を例に上げ、そこから見る漁師たちの信仰心を日本の民間信仰として解釈した。その民間信仰とはなんなのか、また日本の民間信仰における動物観と西洋のキリスト教的な動物観の比較を用いて、供養という宗教行為の意義を探った。結果、供養という行為が動物を殺す際に生まれる罪悪感を癒す役割を担うという可能性を明らかにした。
12:00	**市民の炭素税政策への賛同を得るために必要な政府の取り組みとは～日本とEUの炭素税政策の比較～** *的場健吾（千里国際高3年）* 本研究の目的は、日本の人々の炭素税政策への賛同を誘うために必要な政府の取り組みについて明らかにすることである。方法として、環境省やEUの意識調査の結果を分析し、日本とEUの炭素税政策の現状とそれらの背景にある気候変動への意識について考察した。その結果、「対策の影響実感」を与える社会の仕組みが市民に対気候変動政策に対するポジティブな認識を与えることができ、政策の推進に繋げる。新奇性・価値: 心理学の観点から炭素税政策の新たに有効な施行方法を議論する。

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）

・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評

・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

第２日（11月18日［土］）口頭発表B会場（Ⅱ号館102教室）

9:00	**ポケモンGOの改善案提案** *太田一誠（総政4年；伊佐田ゼミ）* スマートフォンユーザーの増加に伴いスマホゲーム市場も成長してきた。しかし、2014年以降微々たる成長しかなく、2016年リリースされたPokémon GOによる新規ユーザー層を獲得したにもかかわらず、提供サービスが需要を満たせていないのではないかと仮定した。そこで本研究はPokémon GO問題点を調査し新たな課金方法を提案、それに関して聞き取り調査を行うことで現状の課題に対して有効な手段を提案するものである。
9:30	**生き抜く力～自分で自分の命を守る防災教育～** *角田菜月（葦合高1年）・卜田菜緒子* 現在日本だけでなく世界の各地で自然災害が発生している。日本では特に地震が身近な存在だ。このことを私たちのような震災を経験していない子供たちは認識できているのだろうか。また、南海トラフ地震が発生したとき、自分で自分の命を守れるのだろうか。この夏東北ボランティアに参加し、このような疑問を持ち、防災教育の必要性を痛感した。実際、防災教育として他県に先駆けて東北へ修学旅行に行った中学校、学校でレスキュー部を創設した中学校へのインタビューを参考に防災を見据えた新しい形の修学旅行、そしてその事後学習の提案をする。
10:00	**シェアリング・エコノミーは地球を救う！？** *町田志帆（総政3年；小池ゼミ）・森川さや・永田裕佳子・越後巴絵・奥村桃葉・壷坂昌代* 近年、アメリカ大統領がトランプになったことにより、米国のパリ協定離脱問題が浮上している。離脱に踏み切るとなると、米国の資金目当てに加入した多数の途上国も離脱するのではないかと懸念されている。環境保護は、地球の存続を後世に伝えて行くため、世界が手を取り合って改善していくべき問題であり、日本も、2030年までにCO_2を26%削減する目標を掲げている。私たちは、物・サービス・場所などを、多くの人と共有・交換して利用するシェアリング・エコノミーに着目し、環境問題改善に役立てることができるのではないかと研究した。
10:30	**中学生における自尊感情と演劇教育** *永澤萌絵（葦合高1年）* グローバル化が加速している現代は、英語で自分の意見を主張し他者と意思疎通を図ることが必要とされる。しかし日本では日本語で自分の意見を言うことすら苦手意識を持っている人が多いと感じる。それは自尊感情の低下から来ているのではないか。調査によると、特に中学1、2年生の自尊感情は著しく低下している。では中学生の自尊感情を上げるにはどうすればよいか。私は日本では実施されていない演劇教育と自尊感情の関わりに注目した。日本の演劇教育の現状を調べ、演劇部やワークショップを経験した立場から演劇教育の振興について提案する。
11:00	**日本と台湾の大学生における幸福度調査** *梶谷和矢（総政3年；伊佐田ゼミ）・西崎彰・大床潤・葦苅秀紀* 2016年に国連が実施している世界幸福度調査によると、日本の幸福度は世界155ヵ国中53位だった。一方、日本の隣国であり、同じ東アジアに所属している台湾は33位であった。ちなみに、台湾はアジアで2番目に国民の幸福度が高い国である。では、一体なぜ世界でも経済大国と呼ばれる日本の人たちが台湾の人たちよりも不幸せな生活を送っているのか。本研究では、若者の間でも幸福度が異なるのかを検証するために、日本と台湾の大学生にアンケート調査を実施する。
11:30	**Art Education in Japan** *阪本朋花（葦合高2年）・信宗百音* 現代の日本の学生は、芸術に触れる機会が少ない。しかし、これからの学生に求められる力である「思考力・判断力・表現力」を培うために、芸術教育は必要不可欠なものである。そこで私たちは、日本の学生が芸術に触れる機会が少ない理由の一つである、「芸術に関心がない」という点に着目した。この研究では、日本の学生が芸術に関心を持つことができない原因を分析し、芸術の役割・重要性を明らかにしたうえで、海外の芸術教育の例を参考に、日本の学生がより芸術活動に関心を持てるような新たな教育プランを提案する。

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）

・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評

・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

第２日（11月18日［土］）口頭発表C会場（Ⅱ号館111教室）

9:00	**日本の郊外住宅地における空き地問題～三木市緑ヶ丘町を対象として～** *森松利浩（総政３年；角野ゼミ）* 1970年代以降、日本の大都市近郊では、郊外住宅地の造成が次々と進められた。しかしそれは地域内での人口分布の偏りを生み、昨今、郊外住宅地は多くの問題を抱えている。空き地の増加もその１つであり、今後より加速していくことが懸念される。しかしどうだろう。空き地の増加は本当に問題なのか。空き地は使い方によっては、地域の魅力をより高める可能性を持っている。本研究の対象である三木市緑ヶ丘町は、典型的な日本の郊外住宅地の１つである。緑ヶ丘町全域の空き地の現地調査をもとに、地域に適した空き地活用法を提案する。
9:30	**子育てしやすい“まちづくり”って？** *吉田遥香（御影高２年）・木地萌々音・前田あかり* 私たちは幼児虐待などの記事を新聞で見るたびに、子育ての大変さが気になっていた。そこで行政の子育て支援が、実際に母親の役に立っているのか興味を持った。実態調査として区役所での聞き取り、隣接する灘区との比較、東灘区在住の母親からのアンケート調査を行った。その結果、区の支援は灘区と比べると充実はしているが、利用者は少なく満足度は低いことが分かった。活動場所が遠い事、予定が合わない事が主な原因である。今後は行政だけでなく、場所の提供や広報の充実など、地域が協力して実施していく必要がある。
10:00	**KG Marche Project～地域をよくするプロジェクト創り～** *笠松胡桃（関学高２年）・芝谷咲紀・矢川葉奈・津田理々香* 第５回アジア・ユース・サミットにおいて、参加者が取り組む課題は、「地域をよくするプロジェクト創り」です。参加者が住む地域、通う学校のある地域には、多くの「資源」があります。ここでいう「資源」とは、「人、モノ、自然」など人々が生きるために欠かせないものです。持続可能な地域作りを念頭に、地域の文化や環境、経済を考えながら、これらの「資源」のいくつかを生かして、「地域をよくするプロジェクト」を作ります。社会、文化、環境、経済のことを考える、地域資源を活用する、プロジェクトを持続可能なものにする、参加者自らが実践可能なものにする、この4つの要素を含めることが、このプロジェクトを創る上で最も重要になります。そして、それらが持続可能な地域づくりに繋がります。
10:30	**集まれ！地域の居場所へ～子ども食堂から広げる輪～** *松下莉都（御影高２年）・吉田みやび・木村光祐・西上 遙* 子ども食堂とは大人が子どもに安価で食事を提供する地域の取り組みで、貧困や孤食への関心から近年増加していることを知り、具体的にどのような場所なのかを調べた。私たちは当初、「子ども食堂＝貧困対策」というイメージを持っていた。しかし、フィールドワーク、ボランティア参加から、「子ども食堂＝地域の居場所づくりの一環」であることがわかった。子ども食堂のような居場所づくりに高校生も参加できないかと考え、「学校で高校生が居場所づくりのイベントをする」という方向で研究を進めている。
11:00	**略地図検索のための変形度分析に基づく特徴ベクトルの設計** *成川健太郎（総政Ｍ１）* 観光マップなどによく用いられる略地図は視覚的に見やすく、必要な情報のみが記載されている地図形態のひとつである。略地図はその利用目的によって記載地物や表現方法が異なるためユーザの意図を十分に満たせていないことが多い。そのため、ユーザの意図に合った略地図を提示する略地図編集支援機能の提供が望ましい。そこで本研究では、ユーザの持つ略地図とユーザの編集意図に合った類似略地図とをマージすることで意図に合った略地図を提示可能であるという考えのもと、編集支援機能の過程である類似略地図検索手法を検討する。
11:30	**地域と自然の共生とは～住吉川のホタルの放流から考える～** *山本帆乃佳（御影高２年）・永島なつ華・加藤大志* 住吉川でのホタルの放流が、地域住民や自然環境にどのような影響を与えているかを明らかにした。その結果、行政の指導・協力のもと、任意団体「清流の会」が地域と協力しながら放流事業を行っていることが分かった。またアンケートより、人々が住吉川に自然からの恩恵を感じ、ホタルがいてほしいと思っていることが分かった。しかし専門家からは、住吉川は決してホタルにとって良い環境ではなく、定着はしていないと指摘された。そこで私達は、ホタルや地域住民にとって理想的な自然環境とは何かを考察した。

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）

・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評

・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

第２日（11月18日［土］）口頭発表D会場（Ⅱ号館201教室）

9:00	**ソーシャルキャピタルからみた地域コミュニティの持続可能性** *稲岡瑞希（総政３年；長峯ゼミ）・鈴木雅大・田村和也・太田朱子・小田萌加・脇田実咲* 近年、人口の高齢化や減少により、従来から存在していた地域コミュニティやその中で維持・継承されてきた伝統文化、地域の繋がり、地域への愛着・帰属意識などが衰退し、地域アイデンティティの象徴であるその地域固有の文化、祭り、行事も失われつつあると言われる。その一方で、地震や台風などの災害大国と言われる日本では、防災や減災対策、災害発生後の復旧過程において、地域の支えあいや地域コミュニティが重要な役割を果たしてきた。本研究では、地域コミュニティの機能をソーシャルキャピタルの視点から捉え、自然災害が多発している日本において、近年失われつつある地域コミュニティの再生とその持続可能性について検討する。
9:30	**やさしい日本語で外国人にやさしい神戸のまちへ** *遠藤理紗子（兵庫高１年）、大澤和夏、黒松凜、玉田歩、山本葵* 神戸市には外国をルーツにもつ方々が多く住んでいる。私たちは彼らと日本人の住民との間で言語の壁をなくすことを目的に研究をした。聴き取り調査で分かった彼らが実際に困っていること、すなわち銀行や役所などでの手続きに使われる日本語が難しいという課題について、私たちは改善策を考えた。私たちの提案は、銀行のATMや役所の窓口に簡潔な日本語、いわゆる「やさしい日本語」で手続きの内容を説明したパンフレットや案内板を置くことである。この提案から、外国人だけでなく日本人も手続きがしやすくなることが期待される。
10:00	**なにが日本の長期景気後退を引き起こしたか?～動学的確率的一般均衡モデルを用いた実証分析～** *葦原彩人（総政M2）* 1990年以降、日本経済は長期景気後退を経験しました。その影響は非常に大きく、さまざまな 問題を引き起こしました。我々にとって関係のある雇用に目を向けると、有効求人倍率が下がり 続け、2000年3月卒では0.99と1を割りました（2017年3月卒は1.74）。これは、求職者全員が職を 選ばずに就職活動をしたとしても、必ず就職できない人が生まれるということです。また、自殺者 数もこの時期（正確には1998年）から一気に増加をし始めました。このように景気悪化は我々の 生活に大きな負の影響を与えます。今ではその影響は和らぎつつありますが、これからまた同じ ような不況が起こらないとも限りません。それにもかかわらず、この不況の原因についてはまだ 明らかになっていません。本発表では、最新のマクロ経済学モデルを用いて、この不況の原因を 分析します。
10:30	**高校生調査員が創る！「グージー食べ歩きマップ」** *大森明（兵庫高１年）、小松原薫乃、原夏凪* 兵庫高校の所在地近くにある長田神社前商店街では、若者の利用が少なくなっていることが課題となっている。これは、商店街の活性化プロジェクトに取り組んでいるまちづくり株式会社コー・プランの吉川健一郎氏への聴き取りで明らかになったことだ。私たちはこの課題の解決のために、各店舗への高校生の目線からの調査を実施する。この調査の結果を各店舗に伝え、高校生がより利用できるようなサービスをしてもらうことを促進する。さらに、調査を踏まえて、高校生向けの食べ歩きマップを作成し、近隣の高校に配布することを計画している。
11:00	**NISAによる株式市場への影響～非課税投資のあり方とは～** *吉村太郎（総政３年；亀田ゼミ）・島田由佳子* 平成26年1月より日本で個人投資家を対象としたNISA（少額投資非課税制度）が開始された。本来株式譲渡には20%の株式譲渡益課税が課されるが、NISAでは株式における配当・譲渡益等が一定額非課税になるため、キャピタルゲインをより多く受け取ることができる。制度開始以来その口座開設数は増加の一途を辿っており、株式市場活性化の大きな一因であることは明らかである。しかし、日本には2016年末の時点で一世帯当たりの貯蓄現在高は平均1820万円と、膨大な額の非流動資金が存在している（総務省）。そこで、Fama-Frenchの3ファクターモデルを用いてNISAによる株式市場への効果を分析し、その検証結果から税制への影響を踏まえながら、非課税枠の拡大を提言する。
11:30	**神戸ノートは神戸を救えるか～神戸ノートから考える人口流出防止策～** *清岡芳史（御影高２年）・野田裕亮・宮田理乃・吉本有玖* 研究の動機は、神戸市東灘区役所の方の講演で、神戸市民が進学・就職のために県外へ流れているという現状の説明があったことからだ。このままではこれからの神戸を担う若者がいなくなってしまう、この問題を解決するには、神戸の名所が表紙に映る「神戸ノート」が解決のきっかけとなる、と考えた。小学校の児童、先生に調査を行い、まずは「神戸ノート」の現状を調べた。その過程でノートを工夫するための仮説を3つ出し、それぞれに結論を付けて1つの提案をした。私たちは、「神戸ノート」が果たす役割を追究し続けた。

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）

・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評

・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

第２日（11月18日［土］）口頭発表E会場（Ⅱ号館204教室）

9:00	**Differences about Japanese hospitality and other countries** *下野栞奈（総政３年；Sawyerゼミ）* This presentation analyzes differences of Japanese hospitality and other countries as perceived by non-Japanese visitors to Japan. Today, Japanese hospitality attracts worldwide attention. I will suggest why Japanese hospitality is respected by other countries in terms of what points of Japanese hospitality are most appreciated. I will finally reveal differences in thinking about hospitality between Japanese and non-Japanes people through a comparative survey.
9:30	**カンボジアを通して見えてきたこと～発展途上国のために今私達ができること～** *関岡幸樹（関学高２年）・西野雄紀・桝田翔太・早野雄大・森澤一充・増山綾香* カンボジアでフィールドワークを行った生徒による、高校生の発展途上国への貢献に関するリサーチです。我々は今年８月初旬、約7日間に渡り、カンボジアにて「海外フィールドワーク」として研修旅行を実施しました。現地での経験を通して、カンボジアその他の発展途上国における問題や取り組みについて学びました。それらの体験をもとに、カンボジアなどの発展途上国で問題となっていること、必要とされていること、自分たちにできることなどについて調べ、考察します。
10:00	**中国における賃貸住宅の普及に向けて** *余舒敏（総政３年；山根ゼミ）* 近年、北京、上海などの大都市では、一人当たりの平均賃金が約9000元（約14万円）/月であるのに対して、不動産の平均価格は約4万元（約64万円）/㎡で、人々にとって家を買うのは難しい状況になっている。そのため、賃貸住宅の需要が増えている。しかし、中国人の考えでは、家を持つのは必要で、身分の象徴でもある。その結果、賃貸住宅に関する法律や政策は十分ではない。今回の研究は中国の賃貸住宅の問題点を巡って、どのような対策を考えれば、中国において賃貸住宅がより普及していくかについて明らかにすることを目的とする。
10:30	**Comparison of English education in South Korea and Japan** *篠原美穂（総政４年；Sawyerゼミ）・中村恵利菜（総政３年）・山内里奈* Our topic is about English education in Japan and other Asian countries especially South Korea. Why Japanese people can't speak English compared to other Asian people? What is the problem with Japanese English education and what Japan should do? We research the way of English education in South Korea. After that, we think that better English education in Japan by comparing to English education in South Korea.
11:00	**ミャンマーに置き薬を！～新ビジネスプランの提案～** *橋爪美弥（兵庫高２年）・中野茉璃乃・石嶋美伶・前堀里奈* ミャンマーでは、都市部と農村部の平均寿命の格差がおよそ7歳と大きい。私たちは農村部の医療改善を目的に、「置き薬」を活かした新しいビジネスモデルを提案する。農村部でも人気がある日本の薬を村ごとに置くことで住民のニーズに応えることができることに加え、アジア太平洋地域で近年約7％の成長率を誇るミャンマーに進出することは日本企業にとって市場の拡大というメリットにもなると考えた。日本財団が過去に行った置き薬事業を先行事例とし、学校の近くのミャンマー料理屋や布亀株式会社への聞き取り調査を参考に研究を進めた。
11:30	**The Possibilities of FIT (Foreign Independent Tours)** *兼子奈生子（総政３年；Sawyerゼミ）* These days, the appearance and spread of OTA (Online Travel Agencies) and Sharing economy (like Uber and Airbnb) are remarkable. The overall concept of people planning international travel on their own has become known as FIT. FIT helps people to travel uniquely and cheaply. It also remedies the lack of hotel in Japan and creates new possibilities for tourism. I will analyze the tendencies of FIT influences on the Japanese travel industry.

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）

・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評

・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

自由形式会場８	Ⅱ-105 10:00 ～ 12:00	**国際社会貢献活動を通して～マレーシア、インドネシア、ドイツより～** *出田志帆（総政４年；村田ゼミ）・秋山七海・松尾和美・下村真末（総政３年）・河島可歩・山本歩実・内田莉沙・濱口晴香* 私たち村田ゼミは、社会貢献活動に参加したゼミ生が以下4つの派遣先ごとに活動内容の紹介と派遣を通して深めたいことを発表する。①マレーシアUniversiti Tunku Abdul Rahman（ユター大学）：現地大学生におけるソフトスキルの意識調査、②マレーシアSarawak Tourism Board(サラワク州観光局)：ボルネオ島における持続可能な観光開発の可能性を、エコツーリズムの視点から研究、③インドネシア Satya Wacana Christian University（附属小学校）：インドネシアにおける日本語教育の必要性、④ドイツ国際平和村：施設で過ごす子供達の病気や怪我を通し、彼らの母国が抱える問題と子供達を取り巻く環境を分析。
自由形式会場９	Ⅱ-305 10:00 ～ 12:00	**禁煙は本当に幸せな社会をつくるのか～喫煙所を通して見えるもの～** *築家佑介（総政３年；津田ゼミ）* 現在日本では禁煙の流れが急速に進んでいる。またそれに伴って、キャンパス内全面禁煙をする大学が増えつつある。確かに副流煙や喫煙マナーなど喫煙者が考えるべき問題は数多くあるが、このまま喫煙者の居場所がなくなり、肩身の狭い思いをする人が増えることが、本当に幸せな社会の実現に繋がるのだろうか。また喫煙所に存在する独特の雰囲気やそこにある独自のコミュニケーションが失われてしまってもよいのだろうか。そこで今回、私は大学の喫煙所に焦点を当て、そこにある独特の雰囲気を写真に収めることで、もう一度日本の「禁煙ブーム」について見直すきっかけを作り、よりよい喫煙の仕方や分煙方法を提案したい。

18日（土）午後の予定

■13:00～14:30はAcademic Commonsで第20回記念大会企画（p.30～35参照）
・総合政策学部卒業生から仕事やキャリアをうかがうシンポジウム＆アポなしOBOG
・参加者には、ラウンジで軽食を用意（数に限りがあるので、お早めに移動）
・どなたにもオープン。高校生の方も大学や就職、仕事についてのお話を聞けます。

■引き続き、14:30～15:00に優秀賞受賞者発表式＋全体講評
・発表者の皆さんはご集合下さい。受賞者を発表するとともに副賞授与
・賞状は11月22日のチャペルで授与（学内者）あるいは後日郵送（学外の方々）

第20回記念大会企画
総合政策学部＆総合政策学部同窓会共催

日時：18日（土）　13:00～14:30　会場：アカデミックコモンズ

■記念シンポジウム　総合政策、リサーチ・フェア、そしてキャリア

パネリスト	K．T．（２期生） T．Y．（５期生） N．W．（19期生）	コメンテーター 司会	Y．Y．（２期生） 高畑由起夫（教員）

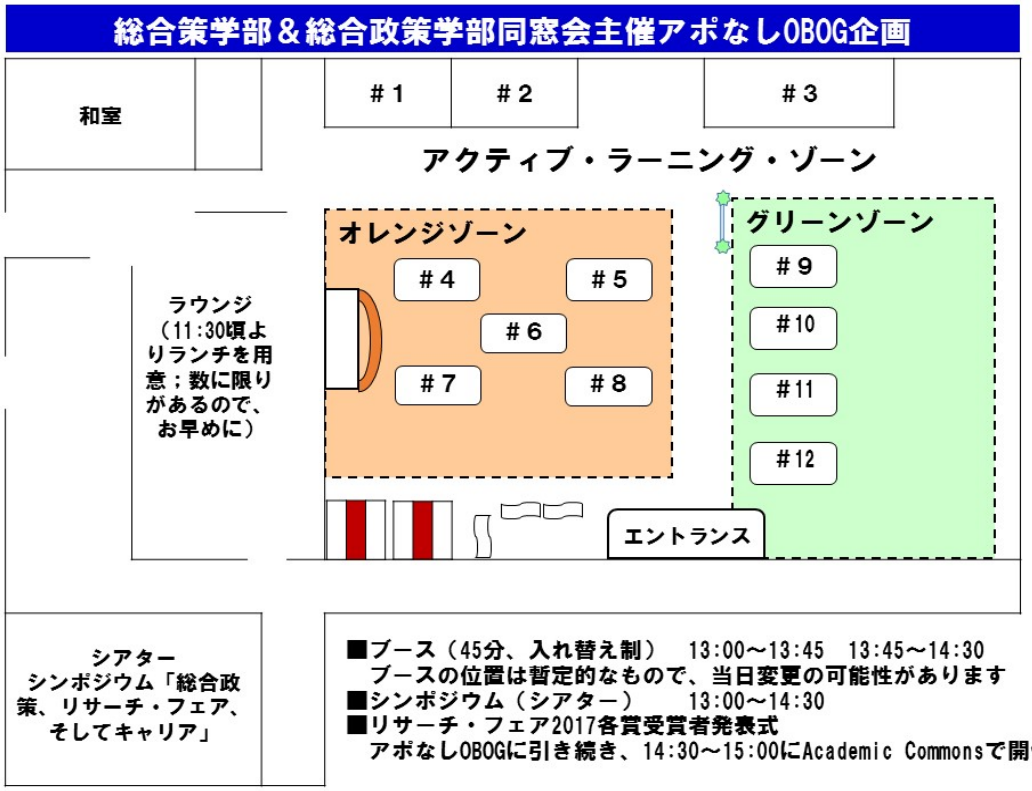
■アポなしOBOG訪問

#1：働き方改革→働く人改革～リラックスして一生懸命働こう！～	K．I．
#2：大学では教えてくれない、キャリアスタートアップのヒント2017	O．K．
#3：人事・採用担当の見てるトコ	A．T．
#4：PRのお仕事	Y．M．
#5：卒業後のキャリアの考え方	O．Y．
#6：空の仕事～パイロットという生き方～	K．T．
#7：すべらないキャリア論～大事なことは全てKSCから教わった	T．K．
#8：卒業後の経歴など	N．H．　H．T．
#9：金融を目指す方どうぞ	H．E．　T．M．
#10：会社だけに頼らない生き方	K．D．
#11：フリーランスという働き方	A．R．
#12：学校の先生	N．T．

■当日参加など、ブースやチューターが追加になることも、逆に、お仕事の都合でキャンセルになることもありますので、当日の掲示などにご注意下さい。

■45分を１クールとして入れ替え制

■ブースは下図参照（当日変更することもありますので、ご注意下さい）



各賞受賞者発表式＋全体講評

18日（土）　14:30～15:00　Academic Commons

■各賞受賞者（口頭・ポスター発表の最優秀賞・優秀賞・奨励賞等）の発表ならびに副賞授与
賞状授与は、学内の方には11月22日のチャペルにて、学外の方には後日郵送

■実行委員会から、発表内容に対する全体的な講評

第20回記念大会企画主旨

リサーチ・フェア2017は第20回記念大会として、総合政策学部＆総合政策学部同窓会共催で以下の二つのイベントを開催します。

（1）記念シンポジウム「総合政策、リサーチ・フェア、そしてキャリア」

（2）「アポなしOBOG訪問」

シンポジウムでは、K.T.総合政策学部同窓会会長をはじめ、総合政策学部同窓の方をパネリストにお迎えして、卒業生にとっての総合政策、そしてリサーチフェアとは何か？　さらに、それぞれのキャリアについて語っていただき、在学生の方々にこれからの学科選択、ゼミ選択、就活、そのあとのキャリアの選択に参考にしていただければ幸いです。

また、同時開催のアポなしOBOG訪問では、卒業生の皆さんから仕事やキャリアに関する様々な事柄をじかにうかがい、これからの進路を考える参考にしていただければと考える次第です。

■シンポジウム「総合政策、リサーチ・フェア、そしてキャリア」（会場：アカデミック・コモンズ・シアター）

リサーチ・フェアの20年について、以下の方々から、各世代を代表して語って頂きます。開設当初、教職員と学生がともに新しい学部を築き上げた世代、それを受けてこの学部をどのように発展させていくかに取り組んだ世代、そして、学部をとりまく状況も変わり、大幅な定員増や4学科体制となるなど組織自体が大きく変化した世代です。それぞれの方々は4年間の時間の流れの中で、こうした変化を少しずつ体験されながら、入学、学び、卒業されていきました。一方で、長い目で学部の歴史を振り返る時、何時の間にか世間も大学も学部も変わってきた道筋をあらためて振り返り、これからの学部のあり方、そしてその中での学生の皆さんが進むべき道を考えていきたい。これが本日の主旨です。

■パネリスト

・K. T. さん（2期生）：創生期、様々な活動にたずさわった後、A市でNPO立ち上げ、現在は市会議員としてご活躍の立場から話題提供します。

・T. Y. さん（5期生）：SCS立ち上げ、企業で働いた後、職員として関学に復帰（R学部勤務）。複層的な視点でメッセージをいただきます。

・N. W. さん（19期生）：SCS、政策・情報 学生交流会（第39回交流会総代表）をつとめ、企業に勤務。若い世代の立場からご意見をいただきます。

■コメンテーター

・Y. Y. さん（2期生）：リサーチ・フェア実行委員等を経て、卒業後、K学院を経てS国際高等学校勤務。とくに大学に生徒を送り出す立場として、コメントをいただきます。

なお、パネリスト、コメンテーターの方の履歴・メッセージ等はp.31をご覧下さい。

■司会：高畑由起夫（総合政策学部教員）

■参加者の皆さんにはAcademic Commonsに軽食を用意します！

午前中の口頭発表・自由形式の終了から、シンポジウム・アポなしOBOGまであまり時間もありません。せっかく先輩の皆さんとの貴重な語らいの時間を有効に活かすため、シンポ・アポなしOBOGに参加する方のため、軽食を用意する予定です。Academic Commonsのラウンジにてお配りしますので、参加される方は是非ご利用下さい（なお、数に限りがありますので、ご利用される方はお早めにラウンジにお越し下さい。また、ランチをお取りになる場所はラウンジ周辺や、オレンジゾーン、あるいは外のベンチなど飲食が可能なところをご利用下さい）。

パネリスト	
氏名・卒業年度・ゼミ・所属等	経歴＆メッセージ
K. T. 2000年卒 渡部律子ゼミ S市議会議員	【学生時代から現在までの経歴】 大学在学中に、ボランティアサークルSSVの活動を通して、障害者支援活動を開始。大学院在学中に、NPO法人WELnetSを設立、代表理事となる。『誰もがあきらめることなく、やりたいことに挑戦できる社会の実現』を目指し、障害のある方の教育支援事業、就労支援事業、生活支援事業を展開する。昨年、新たなアプローチ手法を手に入れるため、政治の世界に飛び込むことを決意。S市議会議員となる。現在、無所属・無会派の市民派議員として、しがらみのない、市民目線の政治を実践している。 【現役学生へのメッセージ】 皆さんは大学卒業後の人生についてどんな思いを持っていますか？具体的にやりたいことが決まっている人。考えたこともない人。漠然と不安な人。それぞれに色々な思いがあると思います。未来がどうなっているのか、それは誰にもわかりません。しかし、「今」の積み重ねが未来を創るということは確かです。「今」という時間を大切に、後悔することのない学生生活を送ってください。
T. Y. 2003年卒 Greeneゼミ 関西学院職員（R学部担当）	【学生時代から現在までの経歴】 1年生で政策情報学生交流会に参加、SCSの前身SAに加入。そして3年生でSCSの立ち上げに参加し、初代コンビーナーを担当。2003年卒業後はNY（現YJ）に就職し、マーケティング、PRに従事。2011年に転職し母校である関西学院大学に。現在、R学部の国際交流推進や、高大接続業務を担当。 【現役学生へのメッセージ】 第一志望だった人も、そうでない人も。目標がある人も、まだ見つかっていない人も。可能性が無限に広がる総政で過ごす4年間を、生かすも殺すもあなた次第。学生時代は勘違いなまでに、自信過剰がちょうどいい。思考を停止せず、とことん自分の可能性を信じて、たくましく自分の人生を切り開いてほしいです。古くから確立された学問ではないからこそ、教職員と共に、新たな総政を学生である皆さんが拓いていけると信じています。
N. W. 2017年卒 長峯ゼミ 大阪ガス	【学生時代から現在までの経歴】 2012年　SCSに所属、東日本大震災復興支援に参加 2013年　政策・情報 学生交流会に参加、フットサル、映画鑑賞（サークル）、ボランティア団体に所属、就職活動開始（9月） 2014年　長峯ゼミに所属、第39回 政策・情報 学生交流会 総代表、リサーチ・フェア実行委員 2015年　政策・情報 学生交流会 関学支部 総代表 2016年　公務員を目指して就活、塾講師バイト 2017年　Oガス 入社 【現役学生へのメッセージ】 夢中になれることはありますか

コメンテーター	
氏名・卒業年度・ゼミ・所属等	経歴＆メッセージ
Y. Y. 2000年卒 中條ゼミ 大阪府内の私立中学高校	【学生時代から現在までの経歴】 大学3回生のとき、教育業界を中心に就職活動をし、数学の塾講師として内定を得る。並行して教職の授業を履修する中で徐々に教員になりたいという希望を持つようになり教員免許状の取得を始める。ところが総合政策学部では数学科の免許が取得できず、大学院へ進学。就職がきまると同時に数学科の教員免許状が取得でき、現在教員16年目になります。 【現役学生へのメッセージ】 学生時代には多くの事をやっていました。総政開学2年目に入学した事もあり、様々な行事の立ち上げにSA（現SCS）として関わっていましたが、その中の1つに総政独自で行っている卒業パーティーがありますが、今でもこれが続いている事が非常に嬉しいです。その時の経験は、実際教員として働く際にも非常に役に立ちました。残りの学生生活では是非積極的に様々な事に関わって欲しいと思います。

■アポなしOBOG訪問

今年もたくさんの卒業生がボランティアとして三田に集います。
在学生の皆さんは、座談会形式で気軽にOBOG訪問ができるチャンスです！
社会人としての経験、就職後に訪れた仕事上・生活上のハードル、それらをどのように乗り越えてきたか、
就活で苦労した事など、様々なご質問にお答えします。
貴重なこの機会に、是非皆さんお誘い合わせの上、ご参加ください。

なお、チューターの皆さんはお忙しく、当日、キャンセルになることも珍しくありません。逆に、予定になかった方が急遽、加わることもあります。そのため、当日の掲示などにご注意下さい。

1	**働き方改革　→　働く人改革～リラックスして一生懸命働こう！～（アクティブ・ルーム1**	
	K. I. 2004年卒 Rossゼミ TRJ社	**【学生時代から現在までの経歴】** 総合政策学科4回生の時に休学し、ニュージーランドへ語学留学。その後、N通運株式会社国際航空貨物課にて主に日本メーカーの航空輸出業務に従事。1度転職し、TRJ株式会社にて、日本企業が海外で製品を販売する際に必要となる各種認証や規制への対応の支援を行っている。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 学生時代には知り得ない様々な企業や仕事が世の中にはあります。また、世の中では「働き方改革」が叫ばれていますが、「働く人」が変わらなければなりません。何をするのか、誰とするのか、どのようにするのか、固定概念や思い込みを取り払い、いろんな視点で考えていきましょう。
2	**大学では教えてくれない、　キャリアスタートアップのヒント2017（アクティブ・ルーム2**	
	O. K. 2004年卒 福田ゼミ T. R. 株式会社	**【学生時代から現在までの経歴】** 2004年総政卒。N社にてSE・プロジェクトマネージャを務めたのち、コンサルタントとしてDTコンサルティングに転職しました。さらに、今年5月より機械部品商社のTR社に転じ、現在は取締役として会社の運営全般を担っています。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 学生の皆さんにとって、どのようにキャリアをスタートさせるかは大きなテーマだと思います。スタートの仕方によって、その後のキャリアに大きな違いが出ます。しかし、様々な情報が溢れるなかで判断する材料がなく、どうするのが自分にとってベストなのか悩んでいる方も多いのではないでしょうか？ 企業は耳障りのいい事をいうけど、世の中そんないい会社ばかりなワケないよね？　この仕事ってどんな内容？　そもそも働くとは？等といったテーマについて、過去3社で働いてきた経験をもとに、ヒントになるお話をしたいと思います。社会人のホンネを聞きたい方、ぜひお越しください。私も、みなさんが考えていることを知りたいと思います。
3	**３．人事・採用担当の見てるトコ（アクティブ・ルーム３・４予定）**	
	A. T. 2004年卒 Greeneゼミ DTCS合同会社	**【学生時代から現在までの経歴】** 学生時代は、海外留学、海外放浪の旅、SCS、卒パ委員会、サークルはGEORDIE等で色々と活動しました。そしてゼミはGreeneゼミにて、グループワークで必死に議論し合っていました。 新卒で入ったのはHPという外資系IT企業で、セールスと、人事（主に採用）及び事業戦略の仕事を約5年しました。現職のDTCSは総合コンサルティングファームです。これまで約8年、採用を中心とした人事の仕事全般一貫してに携わっています。監査法人Tに所属していましたが今年からDTグループのコーポレート機能を集約した会社に転籍しています。 **【採用担当者の目線、企業の目線、学生の皆さんに伝えたいこと】** 私は社会人として「人」を見る仕事に長く携わっており、経験から、感じることがたくさんあります。学生の皆さんに伝えておきたいことも聞きたいこともたくさんあるので、大いに議論しましょう。 就活について聞いてみたい人、就活への不安がある人、選考や採用って、どのように行われているか、企業はどう見ているのか、について聞いてみたい人は、お気軽にどうぞ。学年問わず就活の準備としてもお越しください。
4	**４．PRのお仕事（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	Y. M. 2008年卒 Greeneゼミ （株）Sプロモーション部大阪オフィス	**【学生時代から現在までの経歴】** 学生時代はGreeneゼミで分厚い教科書を読みながら夜な夜なプレゼン準備を行いながら、SCSで楽しいイベントを考える日々を送っていました。卒業後、”たのしいさわぎをおこす”ことをモットーにしているSというPR会社に入社し、メディアを通じて人の心を動かすことを目標に精進する毎日です。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** （1）PR会社ってなに？って思っている人 （2）「広報」とか「プレス」とか、メディアを通じたお仕事に興味がある人 （3）情報番組のニュースの作り方を知りたい人 （4）最近大阪オフィス勤務になったので、大阪で働くことと東京で働くことの違い

5	**5．卒業後のキャリアの考え方（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	O. Y. 2002年修士 福田豊生ゼミ (株)JR	**【学生時代から現在までの経歴】** 一期生入学→3年で休学しエジプトへ→2002年修士修了。現在見た目華やか中身はタフな転職コンサルタントとして管理職クラスの方のキャリア支援をしております。学生時代に描いた「世の中にポジティブなインパクトを与えられる人間でありたいしそれを仕事にしたい」夢の実現のために、ここまでたどり着くまで興味あることにチャレンジし続けて来ました。研究職志望、人事、カウンセラー、介護、モデル・・、もちろんどん底を経験したこともあり。座右の銘は「人は人で磨かれる」「タフな経験儲けもの」 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 仕事・社会人ってしんどいものだと思っていませんか？かつては私も働くことに対してネガティブに感じてばかりでした。本当はそんなことはありません！お金を貰いながら自分のやりたいことにチャレンジできるという素晴らしいものだと今は感じています。（もちろん、プレッシャーや辛い場面もありますが）。では、どうしたらそんな楽しい社会人生活ができるようになるのでしょうか。答えは、学生時代何を夢見て、どんなことを学び・どんな経験をするかにあります。夢を見ること、これが最も大切で、将来辛い時に支えてくれるものになってくれますし、社会人としてどれだけ成長できるかのカギになっています。今回は、この「夢を見ること（ビジョン設定）」の重要性や具体的なやり方等をワーク形式でお伝えし、みなさんの学生生活をより豊かになるお手伝いができればと思っております。
6	**6．空の仕事～パイロットという生き方～（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	K. T. 2008年卒 松村ゼミ B社	**【学生時代から現在までの経歴】** 在学中は地理情報システムを使ったシミュレーション等を行い、卒業前に教授と世界一周し各国の大学や研究機関、企業を視察したり卒業研究の発表を行ったりしました。日常生活では何気なく始めた集団塾の講師のアルバイトを通して教育の大切さや人前で話すことの楽しさを知ることに。 卒業後、B社にパイロット訓練生として入社。最初の2年間は社会経験を積むため営業部署に配属。訓練は座学、筆記試験後にアメリカで約2年間小型機を使用して行われた後、日本で約1年間ボーイング767型機のシミュレータ訓練、沖縄下地島での実機訓練を経て副操縦士に。昨年B787へ移行し、日本国内、欧米、豪州、中国、東南アジア、インドなどへフライトの日々。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 雲の上に広がる青空、満天の星空を眺めながらの夜間飛行。空港では颯爽と歩く姿を想像されると思いますが、そんなパイロットの仕事の裏側とは？？　操縦桿を一度も持ったことがない素人が世界中を飛び回るようになるまではどんな道のりがあるのでしょうか？　飛行機の操縦以外にも空から学ぶことは数知れず。様々な例や実体験などを交えながら、ボーイング787のパイロットがみなさんをいつもと少し違う世界へとご案内します。 航空業界に興味のある方、旅好き、整備士やCAの仕事に興味がある方、パイロットの生活が気になる方…疑問質問もなんでもOK！ フライトや各国の滞在先での画像や動画、制服や仕事道具も紹介します！！ Welcome on board！
7	**7．すべらないキャリア論～大事なことは全てＫＳＣから教わった（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	T. K. 2003年卒 Greeneゼミ M重工	**【学生時代から現在までの経歴】** 当時、創設5年目の新設学部に北海道から飛び込み、歴史もインフラも何もなかった状況を活かし、学生時代はSCS創設、ビジネスコンテスト立上げ等、やりたい事を形にしてきた開拓史でした。 卒業後は「就職」のキャリアを選び、超就職氷河期の中、結果22社から内定、その中で自動車メーカーを選び、7年間調達として原価改善や現場改善を経験、その後、航空宇宙メーカーへキャリアチェンジ。現在はアルミ原料や炭素繊維材のQCDに優れた調達をミッションに年間10回の海外出張を通じて地球を舞台に楽しく修羅場の真っ只中。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 上記自身の経験を踏まえ、大学時代のおすすめキャリアの重ね方や、考え方について質疑応答の形で共有していきます。やるからには学業でも趣味でも特技でも、とにかくぶっ飛ぶことの大切さが【すべらないキャリア】で伝えたいことです。当日は上から目線の講義ではなく、先輩後輩の対等な意見交換の場として自分も気づきや学びをもらいにいきます。 **【key word】** ①就職して転職、まだキャリアは続く　②君達に武器を贈ろう　③世界遺産検定マイスター取得＆映画年400本観ると見えてくる世界
8	**8．卒業後の経歴など（公務員；アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	N. H. 2012年卒 亀田ゼミ A府庁N部	**【学生時代から現在までの経歴】** 平成24年3月：関西学院大学総合政策学部卒業 平成24年4月～平成27年3月：M倉庫港運株式会社 平成27年4月～現在：A府庁 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 3、4回生の方にとって、今一番の関心ごとは就職活動及び働くこと自体ではないでしょうか。 私は新卒時には民間企業に就職し、3年間勤めた後、公務員になりました。人とは少し違った経歴ですが、就職・転職活動での失敗談や民間企業と公務員の違い（3年ずつですが）など、少しでも皆さんのお役に立てるお話ができればと思っております。
	H. T. 2013年卒 亀田ゼミ T県庁	**【学生時代から現在までの経歴】** 在学中はSCS。 卒業後、株式会社K社、関西学院大学経済学研究科修士課程を経て、2017年4月よりT県庁勤務。 【現役学生の皆さんへのメッセージ】 原稿未着ですが、ご参加の予定です。

9	**9．金融を目指す方どうぞ（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	T．M. 2017年卒 亀田ゼミ M銀行	**【学生時代から現在までの経歴】** 大学では、CLUB GEORDIE・KG チャッピーズ・Eco-Habitatに所属し、開発教育・東北ボランティア等を通して様々な経験をしました。また、亀田啓悟教授の元で社会厚生経済学を学び、2017年にM銀行に入行しました。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** なんと言っても、今は寝ずに遊び、寝ずに学び、そしてひたすら寝ること。就職活動の際に、「金融機関なんてありふれた就職なんて絶対にするもんか」と思っていた私がなぜ銀行を選んだのかお話出来ればと思います。
	H．E. 2016年卒 亀田ゼミ M銀行	**【学生時代から現在までの経歴】** 大学で金融工学、経済学を学び金融に興味を持つ。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 回りの意見に振り回されず、自分の意思を大切に信念を持って行動してください。
10	**10．会社だけに頼らない生き方（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	K．D. 2004年卒 陣内ゼミ 自営業	**【学生時代から現在までの経歴】** 履正社高 → 法大 → 関学大 → 三重大院 → 外資系IT企業（2006.4～2010.3） → H電機系列企業（2010.11～2015.1） → D工業（2015．2～9） → M電機（2015．10～2016.6） → 2016年7月から自営業 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** （1）会社員としての経験&個人投資家としての現況（投資ノウハウや個別銘柄の状況などを話す予定はありません） （2）40歳も目前にして（現在38歳）、いろいろな後悔があります。英語やITスキルを磨くのも大切ですが、若いうちに他の資格を取得することが、後々大きな意味がある場合もあるかと思います。そのあたりを踏まえた話をするかもしれません。（時間に制約があり確約できません） （3）上記で延々とエラソーに書きましたが、2011～2016年まで、6年連続で超テキトーなノリでやってました。現に2013年は『テキトーな目標立てて、テキトーに生活して、テキトーに稼いで…』とココに書きました。正直、みなさんがどんな人生を歩むかや、ここで何かを学んで、何かを感じたかとか興味ないです。あくまで普段から考えている一部を話すだけですので、それを踏まえた上で、暇な人や他のブースが満席で時間つぶしの方はどうぞ。
11	**11．フリーランスという働き方（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定）**	
	A．R. 2014年卒 伊佐田ゼミ C STUDIO代表	**【学生時代から現在までの経歴】** 大学2年生の時にグラフィックデザインの専門学校へダブルスクールで通い、3年生から個人でデザインの仕事を請け始め、4年生の時に開業しました。Webサイト制作と印刷物のデザインをメインに、パーソナルカラー診断やイメージコンサルティングのお仕事もしています。 **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** フリーランスという働き方に興味のある方、ハードル高いなと思ってる方に来てもらえたらと思います。興味あるけどなんか大変そうだな…自分にできるのかな…って思ってる人に、少しでも「なんかこの人ができてるならいけそうな気がする…」と思ってもらえたら嬉しいです（笑）。学生時代は色んなことに挑戦して楽しんでください。
12	**12．学校の先生（アクティブ・ラーニング・ゾーンを予定；長尾さん以外にもさらに追加参加の方がいらっしゃる予定）**	
	N．T. 2009年卒 今泉ゼミ T市公立中学校勤務	**【学生時代から現在までの経歴】** 兵庫県S市の公立中学校2校に勤務（計8年）、T市の公立中学校（1年目） **【現役学生の皆さんへのメッセージ】** 時間を大切に、今しか出来ないことをするべきです。今のうちに、いろいろな場所に行って、いろいろな経験をして見聞を広めてください。就職してから後悔しないように。

☆本年度も、３月19日（月）の上ケ原での卒業式後、総合政策学部卒業記念パーティーが計画されています。卒業予定者の方は、是非、ご参加下さい。

2017年11月８日（水）発行
関西学院大学総合政策学部
リサーチ･フェア実行委員会